令和7年度厚生労働省委託事業

令和７年度少子高齢社会等調査検討事業

報告書

令和８年３月

アデコ株式会社

目次

1．事業概要 2

2．アンケート調査結果 8

（1）回答者属性 9

（2）介護・福祉 14

（3）医療 30

3．分析・考察 43

参考資料 53

1 事業概要

1. 事業概要（1/5）

１．事業の目的

- 本格的な少子高齢化・人口減少社会が到来し、日本の高齢者人口がピークを迎える2040（令和22）年を見据えると、医療・介護・福祉の需要は増加を続ける一方、生産年齢人口の急減により、医療・介護・福祉サービスを支える人材不足への懸念が指摘されており、社会保障制度の持続性の確保に当たっては、確実な給付とそれを支える人材確保は避けては通れないことから、これら人材不足への対処は重要課題である。
- このため、サービス提供を担う現場においては、DX・イノベーションによる省力化（生産性向上）、働き方改革や職場環境整備による多様な人材の確保などの取組を行っており、日進月歩の技術革新を踏まえると、それらの取組を続けた先の2040年の医療・介護・福祉の現場及び提供サービスは、今とは異なる様態になっていると想像される。
- 本事業では、アンケート調査を実施し、約３人に１人が高齢者となる2040 年を展望し、国民が医療・介護・福祉サービスに望むこと、現場や政府に期待することなどについて把握した。

1. 事業概要（2/5）

２．調査対象

（１）調査対象

日本国内に居住する20歳～74歳の男女

（２）有効回答数

n=3,000

（３）回答者の年齢区分／対象地域

①年齢区分：下記の4階層

- 20～29歳（2040年に45歳未満）
- 30～44歳（2040年に45歳以上）
- 45～59歳（2040年に60歳以上）
- 60～74歳（2040年に75歳以上）

②対象地域

- 日本国内を「東京23区と政令指定都市」、「その他の地域」の２つに分類。

※政令指定都市（20都市）：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、 新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市

1. 事業概要（3/5）

3．調査方法

- 調査はインターネット調査を実施した（実査は株式会社アスマークに委託）。
- 調査に当たっては、（株）アスマークに登録しているモニターから、20歳以上のモニターを対象として、「東京23区と政令指定都市」、「その他地域」及び年齢階層別にサンプル割付を行い、調査を実施した。
- 割付は、令和7年住民基本台帳（総務省）の人口比をもとに行った。

〈サンプル割付〉

	全体	男性	女性	男性				女性			
				20～29歳	30～44歳	45～59歳	60～74歳	20～29歳	30～44歳	45～59歳	60～74歳
東京23区と政令指定都市	862	433	429	82	128	151	72	81	125	150	73
その他地域	2,138	1,078	1,060	155	259	340	324	142	243	330	345
全体	3,000	1,511	1,489	237	387	491	396	223	368	480	418

4．調査期間

2026年１月29日～２月３日

1. 事業概要（4/5）

5．調査項目

介護・福祉	医療
Q1　介護・福祉サービス利用経験	Q9　医療の仕事へのイメージ
Q2　介護・福祉の仕事のイメージ	Q10　医療分野の担い手不足に対する不安
Q3　介護・福祉分野の担い手不足に対する不安	Q11　医療現場への技術導入に対する受容度①
Q4　介護現場への技術導入に対する受容度	Q12　医療現場への技術導入に対する受容度②（反対の内容）
Q5　介護現場への技術導入の利便性に関する意見	Q13　医療現場への技術導入の利便性に関する意見
Q6　介護・福祉職への関心	Q14　医療分野の人手不足に関する政府への期待
Q7　介護・福祉の職場重視点	
Q8　介護・福祉分野の担い手不足に関する政府への期待	

※詳細は「参考資料」に掲載。

1. 事業概要（5/5）

● 本調査では、「介護・福祉属性」と「医療属性」を以下の通り定義する。

分析軸	分析項目	定義
介護・福祉属性	介護・福祉職従事者	現在介護・福祉職に従事している者
	介護・福祉職就業意向者	現在は介護・福祉職に従事していないが、就業意向がある者 資格の有無を問わない
	潜在介護・福祉資格保有者	現在は介護・福祉職に従事していないが、資格は持っている者 就業意向の有無を問わない
	その他	上記のいずれにも該当しない者
医療属性	医療職従事者	現在医療職に従事している者
	潜在医療資格保有者	現在は医療職に従事していないが、資格は持っている者
	その他	上記のいずれにも該当しない者

※「介護・福祉職就業意向者」と「潜在介護・福祉資格保有者」は回答者が一部重複する。

（注）集計上の留意点

本報告書に記載している比率は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の値と一致しない場合がある。

2 アンケート調査結果

2. 調査結果…（1）回答者属性：性別、年齢

性別

図表１

■男性　■女性

		n数	男性	女性
全　体		3,000	50.4	49.6
年齢区分	20～29歳	460	51.5	48.5
	30～44歳	755	51.3	48.7
	45～59歳	971	50.6	49.4
	60～74歳	814	48.6	51.4
地域区分	東京23区と政令指定都市	862	50.2	49.8
	その他地域	2,138	50.4	49.6

（%）

年齢

図表２

■20代　■30代　■40代　■50代　■60代　■70代

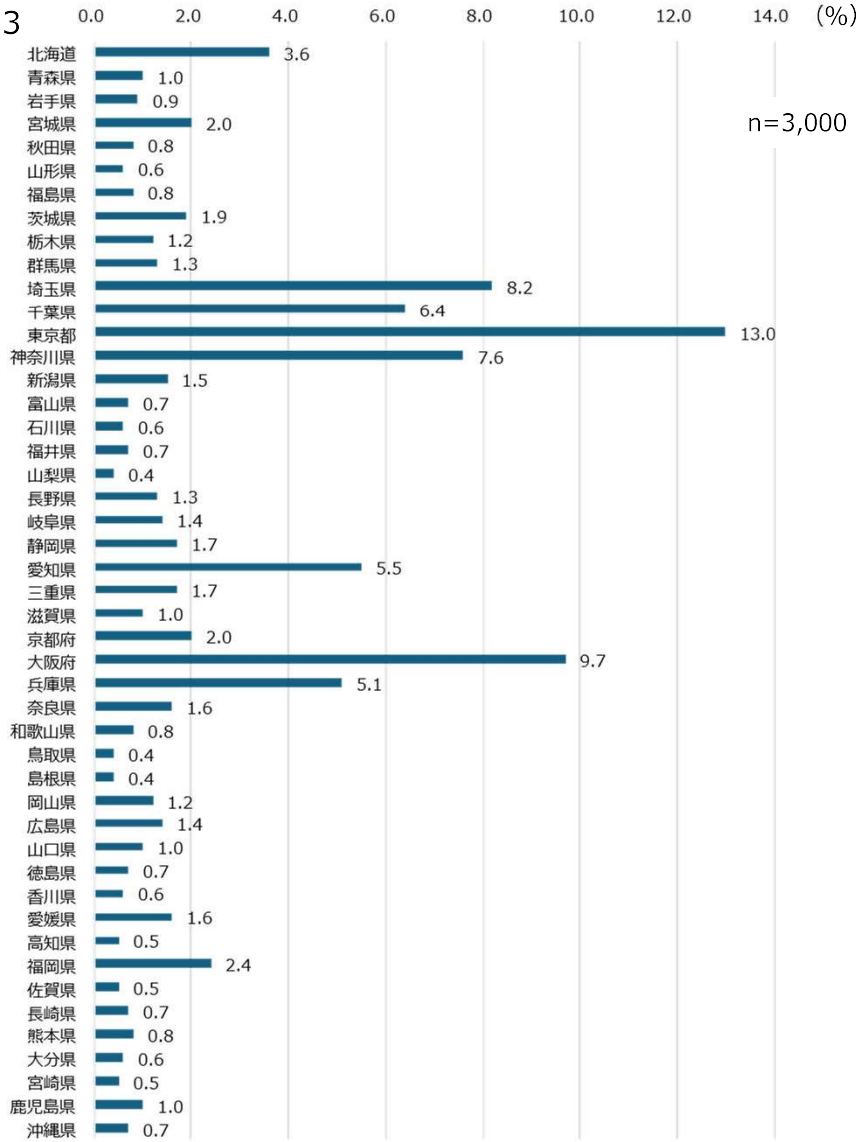
		n数	20代	30代	40代	50代	60代	70代
全　体		3,000	15.3	13.2	21.3	23.1	21.9	5.2
年齢区分	20～29歳	460	100.0					
	30～44歳	755	52.5		47.5			
	45～59歳	971	28.7			71.3		
	60～74歳	814			80.7			19.3
地域区分	東京23区と政令指定都市	862	18.9	15.1	24.6	24.6	14.3	2.6
	その他地域	2,138	13.9	12.4	19.9	22.5	25.0	6.3

（%）

2. 調査結果…（1）回答者属性：居住地

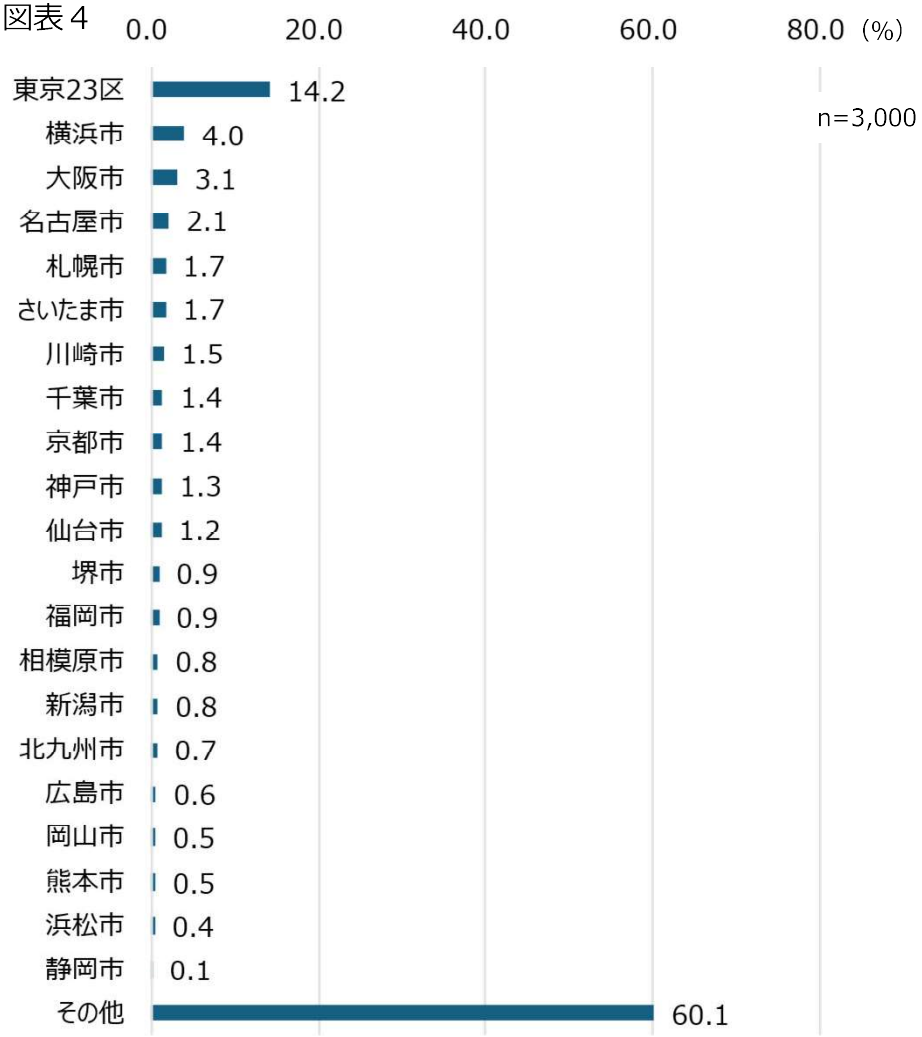
居住地（都道府県）

図表３



居住地（市区町村）

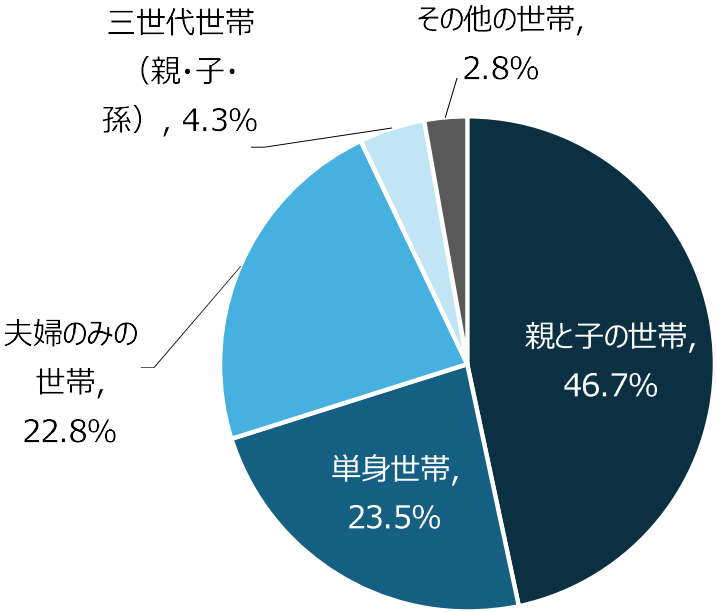
図表４



2. 調査結果…（1）回答者属性：世帯構成

世帯構成

図表 5



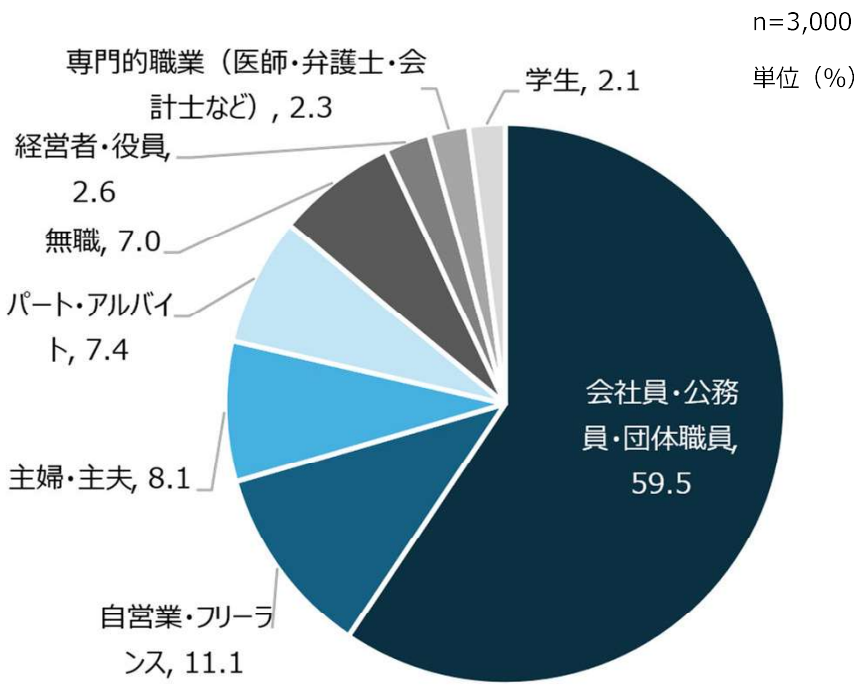
（%）

		n数	親と子の世帯	単身世帯	夫婦のみの世帯	三世代世帯（親・子・孫）	その他の世帯
全　体		3,000	46.7	23.5	22.8	4.3	2.8
年齢区分	20～29歳	460	49.1	31.7	9.8	5.0	4.3
	30～44歳	755	57.0	23.4	12.7	4.2	2.6
	45～59歳	971	51.3	23.9	18.9	3.5	2.4
	60～74歳	814	30.2	18.4	44.1	4.8	2.5
地域区分	東京23区と政令指定都市	862	42.1	33.6	19.7	2.8	1.7
	その他地域	2,138	48.5	19.4	24.0	4.9	3.2

2. 調査結果…（1）回答者属性：職業、職種

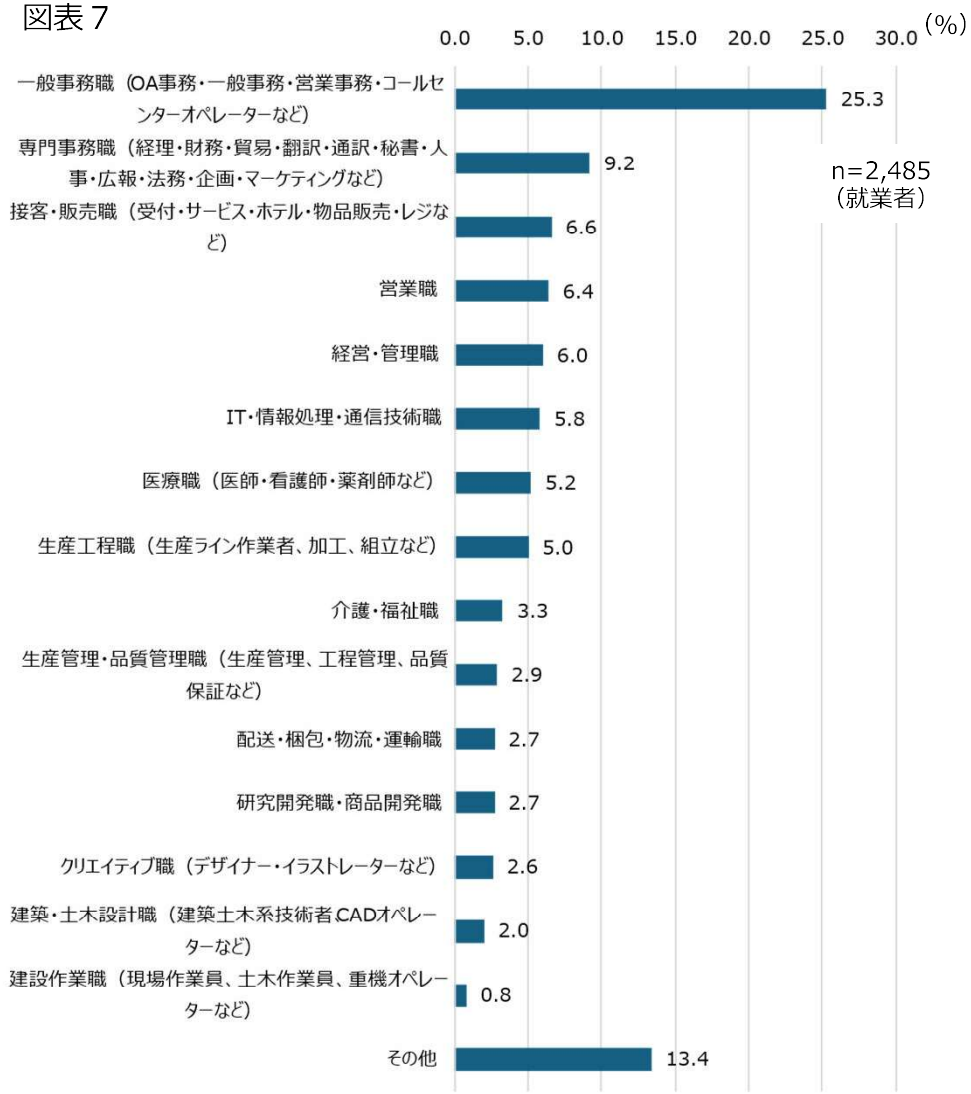
職業

図表６



職種

図表７



2. 調査結果…（1）回答者属性：介護・福祉／医療の資格保有

介護・福祉の資格保有

■ 資格を持っている（介護福祉士、ケアマネジャー、社会福祉士、実務者研修など）
■ 資格を持たない

図表８

		n数	資格を持っている（%）	資格を持たない（%）
全　体		3,000	10.7	89.3
年齢区分	20～29歳	460	18.5	81.5
	30～44歳	755	12.3	87.7
	45～59歳	971	9.9	90.1
	60～74歳	814	5.9	94.1
地域区分	東京23区と政令指定都市	862	14.5	85.5
	その他地域	2,138	9.2	90.8

医療の資格保有

■ 公的な資格を持っている（医師、看護師、薬剤師など）
■ 公的な資格を持たない

図表９

		n数	公的な資格を持っている（%）	公的な資格を持たない（%）
全　体		3,000	10.2	89.8
年齢区分	20～29歳	460	16.7	83.3
	30～44歳	755	13.5	86.5
	45～59歳	971	8.2	91.8
	60～74歳	814	5.8	94.2
地域区分	東京23区と政令指定都市	862	14.4	85.6
	その他地域	2,138	8.5	91.5

2. 調査結果…（2）介護・福祉：①介護・福祉サービス利用経験

- 介護・福祉サービスを利用した経験がある人は26.3%。
- 年齢区分では、60～74歳は40.9%とその他の年齢層に比べて高い。
- 地域区分では、都市部（東京23区と政令指定都市、以下同様）は25.4%、その他地域は26.7%と、差はほとんどみられない。
- 介護・福祉属性では、介護・福祉職従事者は32.5%、介護・福祉職就業意向者は43.7%、潜在介護・福祉資格保有者は59.8%、その他は22.5%で、介護・福祉サービスを利用した経験のある人は潜在介護・福祉資格保有者に最も多い。

Q1. あなたはご自身や家族のために介護・福祉サービスを利用した経験がありますか。（１つ選択）

図表10　　■ある　■ない　単位（%）

		n数	ある	ない
全　体		3,000	26.3	73.7
年齢区分	20～29歳	460	22.0	78.0
	30～44歳	755	16.8	83.2
	45～59歳	971	23.5	76.5
	60～74歳	814	40.9	59.1
地域区分	東京23区と政令指定都市	862	25.4	74.6
	その他地域	2,138	26.7	73.3
介護・福祉属性	介護・福祉職従事者	83	32.5	67.5
	介護・福祉職就業意向者	341	43.7	56.3
	潜在介護・福祉資格保有者	261	59.8	40.2
	その他	2,431	22.5	77.5

2. 調査結果…（2）介護・福祉：②介護・福祉の仕事のイメージ

- 介護・福祉の仕事に対するイメージとして多いのは「肉体的な負担が大きい仕事」（88.1%）、「人手が足りていない仕事」（88.1%）、「精神的な負担が大きい仕事」（86.7%）である（比率は「そう思う」と「ややそう思う」の合計、以下同様）。また「社会基盤を支える大事な仕事」（86.2%）、「仕事に対して賃金が見合っていない仕事」（83.0%）も多く、これら5項目は8割を超える人にイメージされている。
- 一方でイメージする人が比較的少ないのは「家庭やプライベートと両立できる仕事」（25.1%）、「雇用が安定している仕事」（42.0%）、「スキルアップやキャリア形成をしていける仕事」（49.2%）などである。

Q2. 介護・福祉の仕事についてどのようなイメージを持っていますか。以下それぞれについてお答えください。（それぞれ１つずつ選択）

単位（%）

図表11

	n数	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	TOP2	BOTTOM2
Q2-1. 社会基盤を支える大事な仕事	3,000	53.6	32.5	9.7	2.3	1.8	86.2	4.1
Q2-2. やりがいのある仕事	3,000	16.8	35.1	34.6	9.3	4.3	51.8	13.6
Q2-3. スキルや資格が必要な専門性の高い仕事	3,000	26.4	45.7	21.4	4.5	2.0	72.1	6.5
Q2-4. スキルアップやキャリア形成をしていける仕事	3,000	13.9	35.3	35.7	10.5	4.6	49.2	15.1
Q2-5. 家庭やプライベートと両立できる仕事	3,000	5.2	19.9	42.6	21.8	10.4	25.1	32.3
Q2-6. 夜勤や残業など勤務時間が長い仕事	3,000	42.0	37.6	16.1	3.0	1.3	79.6	4.4
Q2-7. 肉体的な負担が大きい仕事	3,000	58.5	29.7	8.8	2.2	0.9	88.1	3.1
Q2-8. 精神的な負担が大きい仕事	3,000	54.7	31.9	10.4	2.1	0.9	86.7	3.0
Q2-9. 雇用が安定している仕事	3,000	12.1	30.0	41.1	11.4	5.5	42.0	16.9
Q2-10. 将来的に成長していく分野の仕事	3,000	15.3	34.9	38.3	7.4	4.0	50.2	11.5
Q2-11. 人手が足りていない仕事	3,000	65.6	22.5	9.1	2.0	0.8	88.1	2.8
Q2-12. 仕事に対して賃金が見合っていない仕事	3,000	55.8	27.3	13.7	2.2	1.0	83.0	3.3

※TOP2＝「そう思う」＋「ややそう思う」

※BOTTOM2＝「あまりそう思わない」＋「そう思わない」

2. 調査結果…（2）介護・福祉：②介護・福祉の仕事のイメージ

- 年齢区分では、高齢層ほど各イメージを強く持つ傾向で、例えば「肉体的な負担が大きい仕事」は、20～29歳では78.9%であるのに対し、60～74歳では93.5%にのぼる。
- 地域区分では差はほとんどみられない。
- 介護・福祉職従事者、介護・福祉職就業意向者、潜在介護・福祉資格保有者はいずれも「家庭やプライベートと両立できる仕事」「やりがいのある仕事」「スキルアップやキャリア形成をしていける仕事」というイメージを持つ比率が全体に比べて高い。また意向者は「将来的に成長していく分野の仕事」（68.3%）、「雇用が安定している仕事」（64.5%）というイメージをより強く持っている。
- 潜在介護・福祉資格保有者を就業意向の有無で比較すると、就業意向のない者は「将来的に成長していく分野の仕事」（40.7%）、「家庭やプライベートと両立できる仕事」（35.2%）、「やりがいのある仕事」（59.3%）、「雇用が安定している仕事」（48.3%）といった肯定的なイメージが就業意向のある者より低い（乖離が大きい項目順）。

Q2. 介護・福祉の仕事についてどのようなイメージを持っていますか。以下それぞれについてお答えください。（それぞれ１つずつ選択）
＜年齢区分、地域区分、介護・福祉属性 【TOP2（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率（%）】＞

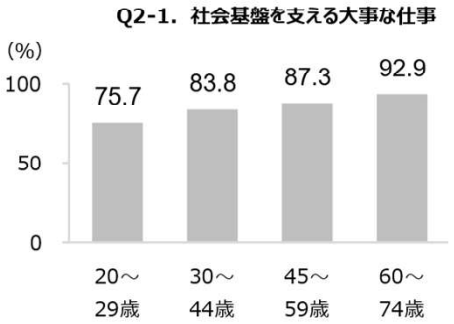
図表12　単位（%）

	全体	年齢区分				地域区分		介護・福祉属性				（参考）資格保有者属性	
		20～29歳	30～44歳	45～59歳	60～74歳	東京23区と政令指定都市	その他地域	介護・福祉職従事者	介護・福祉職就業意向者	潜在介護・福祉資格保有者	その他	潜在介護・福祉資格保有者（就業意向あり）	潜在介護・福祉資格保有者（就業意向なし）
n数	3,000	460	755	971	814	862	2,138	83	341	261	2,431	116	145
Q2-1. 社会基盤を支える大事な仕事	86.2	75.7	83.8	87.3	92.9	84.7	86.8	86.7	85.0	86.2	86.5	90.5	82.8
Q2-2. やりがいのある仕事	51.8	53.0	53.4	47.2	55.3	52.4	51.6	69.9	74.5	69.7	47.6	82.8	59.3
Q2-3. スキルや資格が必要な専門性の高い仕事	72.1	65.2	66.5	71.8	81.7	71.2	72.5	71.1	77.4	71.6	71.8	78.4	66.2
Q2-4. スキルアップやキャリア形成をしていける仕事	49.2	45.9	42.5	46.3	60.7	46.9	50.1	62.7	71.0	63.2	45.2	71.6	56.6
Q2-5. 家庭やプライベートと両立できる仕事	25.1	27.6	24.2	22.9	27.3	26.1	24.7	48.2	56.9	48.7	19.3	65.5	35.2
Q2-6. 夜勤や残業など勤務時間が長い仕事	79.6	69.8	78.7	81.5	83.7	78.1	80.2	78.3	72.7	70.5	81.1	69.8	71.0
Q2-7. 肉体的な負担が大きい仕事	88.1	78.9	85.2	90.3	93.5	85.8	89.1	85.5	78.6	78.2	90.0	75.9	80.0
Q2-8. 精神的な負担が大きい仕事	86.7	76.7	84.6	89.3	91.0	84.8	87.4	91.6	76.8	79.3	88.3	79.3	79.3
Q2-9. 雇用が安定している仕事	42.0	43.7	44.0	40.2	41.5	41.8	42.1	51.8	64.5	57.9	38.2	69.8	48.3
Q2-10. 将来的に成長していく分野の仕事	50.2	44.3	43.6	51.2	58.6	50.5	50.1	42.2	68.3	54.8	48.5	72.4	40.7
Q2-11. 人手が足りていない仕事	88.1	78.7	83.2	90.9	94.6	85.0	89.3	90.4	77.1	77.0	90.2	75.9	77.9
Q2-12. 仕事に対して賃金が見合っていない仕事	83.0	72.6	80.1	86.1	88.0	81.1	83.8	88.0	76.5	76.2	84.3	78.4	74.5

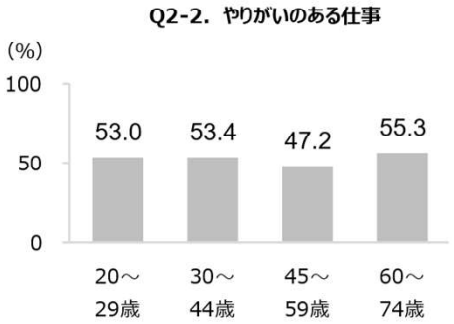
2. 調査結果…（2）介護・福祉：②介護・福祉の仕事のイメージ

Q2. 介護・福祉の仕事についてどのようなイメージを持っていますか。以下それぞれについてお答えください。（それぞれ１つずつ選択）
＜年齢区分 【TOP2（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率（%）】＞

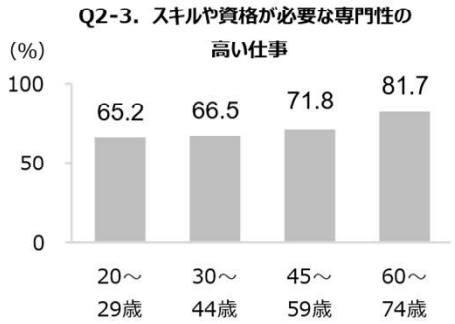
図表13-1



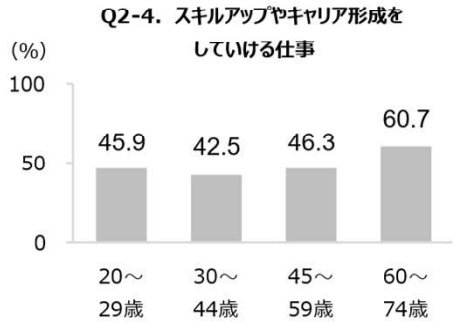
図表13-2



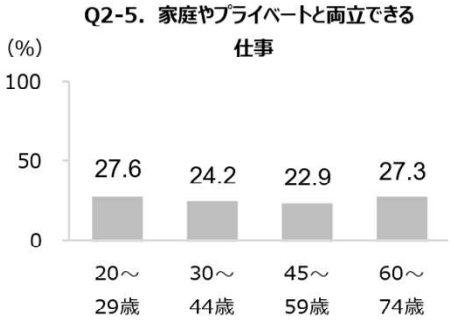
図表13-3



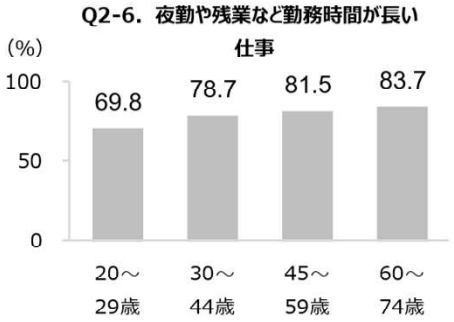
図表13-4



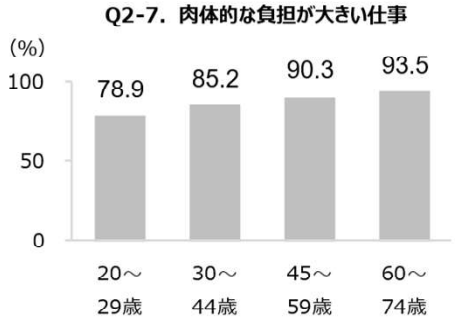
図表13-5



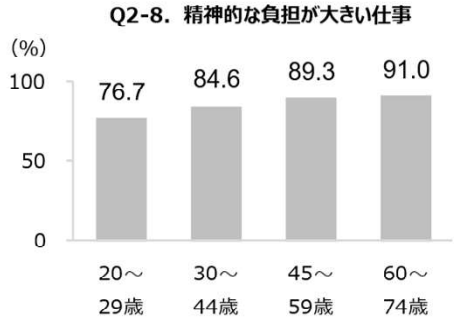
図表13-6



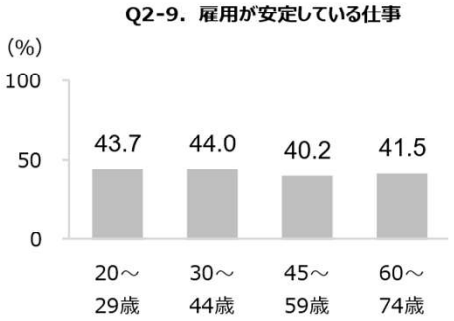
図表13-7



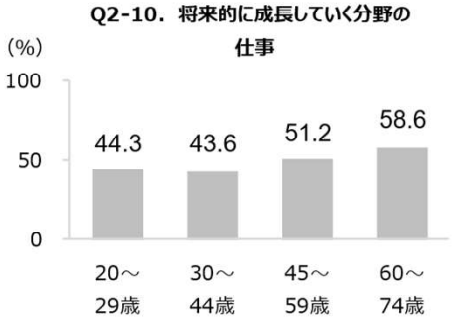
図表13-8



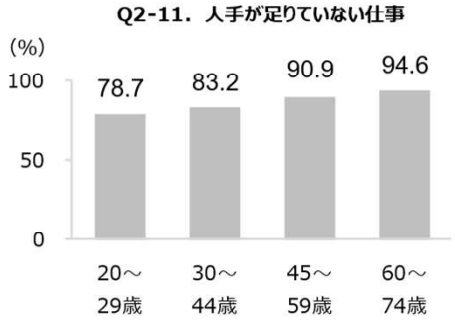
図表13-9



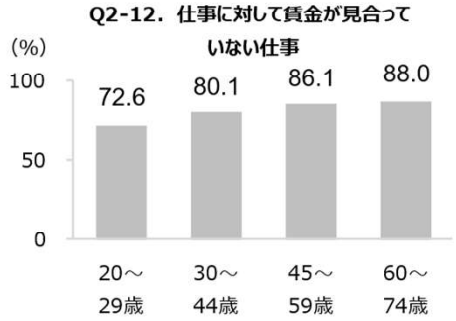
図表13-10



図表13-11



図表13-12



2. 調査結果…（2）介護・福祉：③介護・福祉分野の担い手不足に対する不安

- 介護・福祉分野における将来の担い手不足に不安を感じる人（「不安を感じる」と「やや不安を感じる」の合計、以下同様）は81.3%。
- 年齢区分では、20～29歳が69.6%、60～74歳は87.3%で、年齢が上がるほど不安に感じる人が多い。
- 地域区分による差はほとんどみられない。
- 介護・福祉属性では、将来の担い手不足に不安を感じる人の比率は、介護・福祉職従事者（80.7%）や潜在介護・福祉資格保有者（77.8%）、その他（81.0%）に比べて、介護・福祉職就業意向者（87.1%）が高い。

Q3. あなたは介護・福祉分野における将来の担い手不足について、どのように感じますか。（１つ選択）

単位（%）

図表14

■不安を感じる　■やや不安を感じる　■どちらともいえない　■あまり不安を感じない　■不安を感じない

		n数	不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	不安を感じない	TOP2	BOTTOM2
全体		3,000	43.7	37.6	13.9	2.4	2.5	81.3	4.8
年齢区分	20～29歳	460	29.1	40.4	18.3	5.7	6.5	69.6	12.2
	30～44歳	755	41.5	38.4	14.4	2.6	3.0	79.9	5.7
	45～59歳	971	47.1	35.7	14.4	1.5	1.2	82.8	2.8
	60～74歳	814	50.0	37.3	10.3	1.2	1.1	87.3	2.3
地域区分	東京23区と政令指定都市	862	42.7	37.5	15.1	2.6	2.2	80.2	4.8
	その他地域	2,138	44.1	37.6	13.4	2.3	2.6	81.7	4.9
介護・福祉属性	介護・福祉職従事者	83	55.4	25.3	8.4	7.2	3.6	80.7	10.8
	介護・福祉職就業意向者	341	35.5	51.6	9.1	2.6	1.2	87.1	3.8
	潜在介護・福祉資格保有者	261	41.8	36.0	18.4	2.3	1.5	77.8	3.8
	その他	2,431	44.4	36.5	14.2	2.2	2.6	81.0	4.8

※TOP2＝「不安を感じる」＋「やや不安を感じる」

※BOTTOM2＝「あまり不安を感じない」＋「不安を感じない」

2. 調査結果…（2）介護・福祉：④介護現場への技術導入に対する受容度

- 将来、介護現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対しては肯定的な受け止めが多い。「利用者の見守り支援でセンサーなどの先進機器が導入されること」は82.2%、「移乗、移動で介護ロボットなど先進機器が導入されること」は81.9%、「利用者の排泄や入浴などの生活面で、介護ロボットなど先進機器が導入されること」は79.3%が肯定的である（比率は「賛成だ」と「やや賛成だ」の合計、以下同様）。
- またICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った介護サービスを受けることに関して、「家族が受けること」には74.9%が、「自分が受けること」には73.6%が肯定的である。自分や家族が実際にサービスを受けることを想定した場合の賛意はやや下がるが、肯定的な受け止めの方が多いという点は変わらない。
- 「利用者とのコミュニケーションで介護ロボットが導入されること」には73.8%が肯定的。

Q4. 将来、介護現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対してどう感じますか。以下それぞれについてお答えください。（それぞれ１つずつ選択）

単位（%）

図表15

	n数	賛成だ	やや賛成だ	どちらともいえない	やや反対だ	反対だ	TOP2	BOTTOM2
Q4-1. 介護現場で、利用者の移乗、移動で介護ロボットなど先進機器が導入されること	3,000	47.0	34.9	15.4	2.0	0.7	81.9	2.7
Q4-2. 介護現場で、利用者の排泄や入浴などの生活面で、介護ロボットなど先進機器が導入されること	3,000	45.5	33.8	16.9	3.0	0.8	79.3	3.8
Q4-3. 介護現場で、利用者の見守り支援でセンサーなどの先進機器が導入されること	3,000	48.8	33.4	15.6	1.8	0.3	82.2	2.2
Q4-4. 介護現場で、利用者とのコミュニケーションで介護ロボットが導入されること	3,000	39.7	34.0	21.7	3.5	1.0	73.8	4.5
Q4-5. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った介護サービスを家族が受けること	3,000	39.2	35.7	21.5	2.7	0.9	74.9	3.6
Q4-6. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った介護サービスを自分が受けること	3,000	39.5	34.0	22.6	2.8	1.1	73.6	3.9

※TOP2＝「賛成だ」＋「やや賛成だ」
※BOTTOM2＝「反対だ」＋「やや反対だ」

2. 調査結果…（2）介護・福祉：④介護現場への技術導入に対する受容度

- 年齢区分では、高齢者ほど技術導入に肯定的な傾向がみられる。例えば「利用者の見守り支援でセンサーなどの先進機器が導入されること」に肯定的だったのは20～29歳では74.1%であるのに対し、60～74歳では88.2%であった。
- 地域区分では差はほとんどみられない。
- 介護・福祉属性では、介護・福祉職従事者と潜在介護・福祉資格保有者は、全体に比べ、いずれの技術に関しても肯定的な回答の比率が低い傾向であるのに対し、介護・福祉職就業意向者は肯定的な回答の比率がやや高い傾向。
- 「利用者の見守り支援でセンサーなどの先進機器が導入されること」については、介護・福祉職従事者は83.1%が肯定的で、他の技術に比べて受容度が高い。

Q4. 将来、介護現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対してどう感じますか。以下それぞれについてお答えください。（それぞれ１つずつ選択）
＜年齢区分、地域区分、介護・福祉属性 【TOP2（「賛成だ」＋「やや賛成だ」）の比率（%）】＞

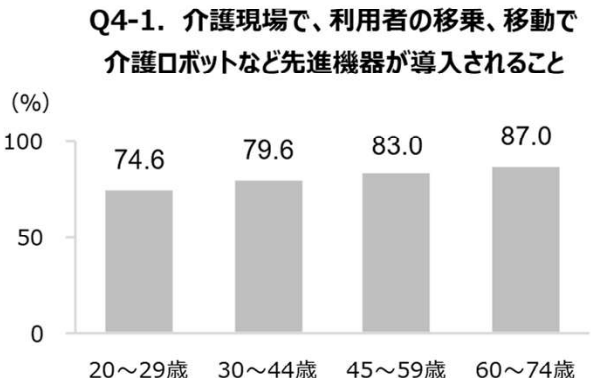
図表16　　単位（%）

	全体	年齢区分				地域区分		介護・福祉属性			
		20～29歳	30～44歳	45～59歳	60～74歳	東京23区と政令指定都市	その他地域	介護・福祉職従事者	介護・福祉職就業意向者	潜在介護・福祉資格保有者	その他
n数	3,000	460	755	971	814	862	2,138	83	341	261	2,431
Q4-1. 介護現場で、利用者の移乗、移動で介護ロボットなど先進機器が導入されること	81.9	74.6	79.6	83.0	87.0	82.4	81.8	78.3	83.6	79.7	82.2
Q4-2. 介護現場で、利用者の排泄や入浴などの生活面で、介護ロボットなど先進機器が導入されること	79.3	73.3	76.4	81.6	82.7	80.2	79.0	69.9	78.9	78.2	79.7
Q4-3. 介護現場で、利用者の見守り支援でセンサーなどの先進機器が導入されること	82.2	74.1	78.0	84.2	88.2	81.3	82.6	83.1	79.8	76.2	83.0
Q4-4. 介護現場で、利用者とのコミュニケーションで介護ロボットが導入されること	73.8	67.2	73.6	75.0	76.2	74.2	73.6	62.7	74.8	67.4	74.6
Q4-5. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った介護サービスを家族が受けること	74.9	71.3	74.2	76.0	76.4	75.4	74.7	69.9	78.3	69.3	75.2
Q4-6. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った介護サービスを自分が受けること	73.6	70.7	73.4	74.5	74.3	75.4	72.8	60.2	78.0	69.3	74.0

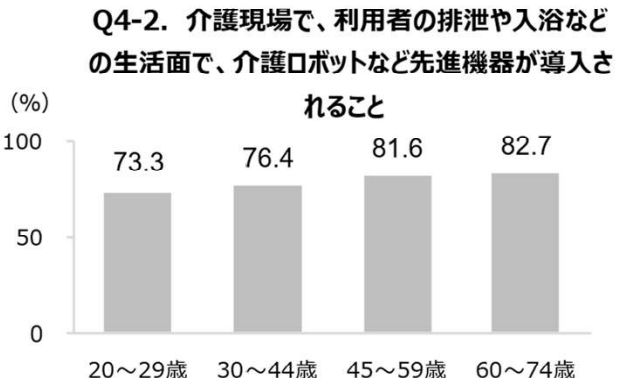
2. 調査結果…（2）介護・福祉：④介護現場への技術導入に対する受容度

Q4. 将来、介護現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対してどう感じますか。以下それぞれについてお答えください。（それぞれ１つずつ選択）
＜年齢区分 【TOP2（「賛成だ」+「やや賛成だ」）の比率（%）】＞

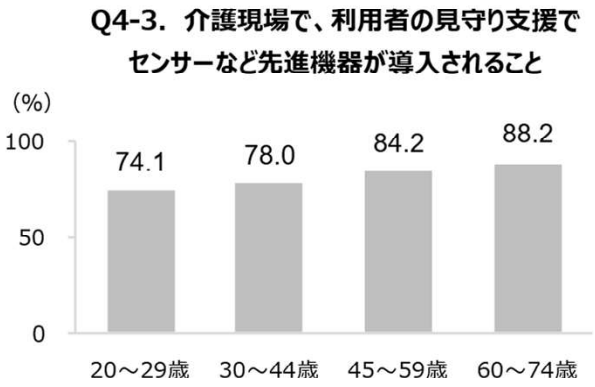
図表17-1



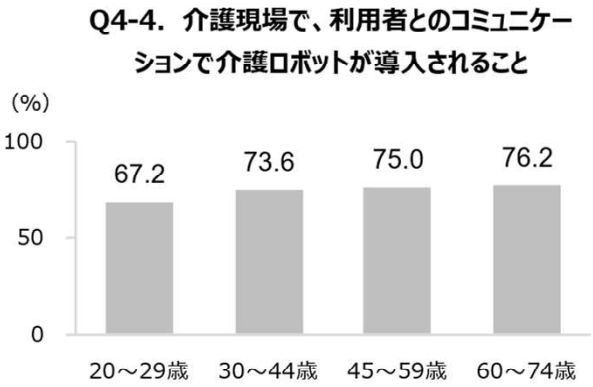
図表17-2



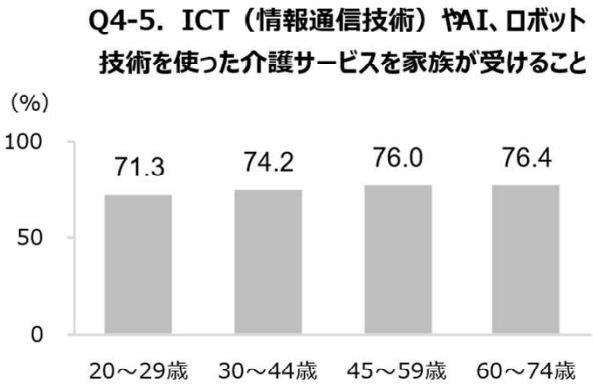
図表17-3



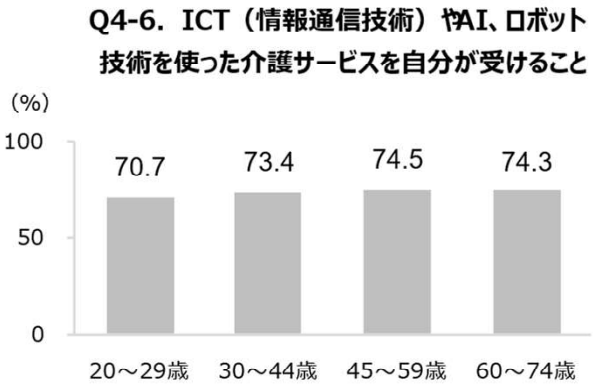
図表17-4



図表17-5



図表17-6



2. 調査結果…（2）介護・福祉：⑤介護現場への技術導入の利便性に関する意見

- ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及による介護現場の変化に関しては、肯定的な意見が多い。「介護従事者の負担が軽減される」が83.7%と最も高く、「より安全で質の高い介護サービスを利用できる」は68.4%、「介護を受けることに対する利用者の心理的負担が軽減する」は68.2%である（比率は「そう思う」と「ややそう思う」の合計、以下同様）。

Q5. 介護現場へのICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及により、介護現場はどのように変わると思いますか。（それぞれ１つずつ選択）

単位（%）

図表18

	n数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	TOP2	BOTTOM2
Q5-1. より安全で質の高い介護サービスを利用できる	3,000	26.3	42.1	27.6	3.3	0.7	68.4	4.0
Q5-2. 介護従事者の負担が軽減される	3,000	49.5	34.2	14.4	1.4	0.5	83.7	1.9
Q5-3. 介護を受けることに対する利用者の心理的負担が軽減する	3,000	31.2	37.0	26.7	4.2	1.0	68.2	5.1

※TOP2＝「そう思う」＋「ややそう思う」

※BOTTOM2＝「あまりそう思わない」＋「そう思わない」

2. 調査結果…（2）介護・福祉：⑤介護現場への技術導入の利便性に関する意見

- 年齢層では、20～29歳の肯定的な意見が、他の年齢層に比べて少ない傾向。特に「介護従事者の負担が軽減される」に関しては、60～74歳は88.7%であるのに対し20～29歳は75.4%と、年齢による肯定的な意見の差が大きい。
- 地域区分では差はみられない。
- 介護・福祉属性では、介護・福祉職従事者は他の属性に比べると肯定的な意見が少ない。就業意向者は「より安全で質の高い介護サービスを利用できる」（84.2%）と「介護を受けることに対する利用者の心理的負担が軽減する」（77.7%）の肯定的な意見が他の属性よりも多く、サービスを受ける立場でのメリットをより強く感じているといえる。

Q5. 介護現場へのICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及により、介護現場はどのように変わると思いますか。（それぞれ１つずつ選択）
＜年齢区分、地域区分、介護・福祉属性 【TOP2（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率（%）】＞

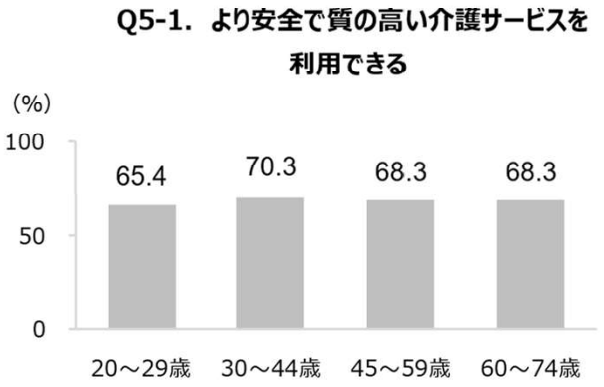
図表19　　単位（%）

	全体	年齢区分				地域区分		介護・福祉属性			
		20～29歳	30～44歳	45～59歳	60～74歳	東京23区と政令指定都市	その他地域	介護・福祉職従事者	介護・福祉職就業意向者	潜在介護・福祉資格保有者	その他
n数	3,000	460	755	971	814	862	2,138	83	341	261	2,431
Q5-1. より安全で質の高い介護サービスを利用できる	68.4	65.4	70.3	68.3	68.3	68.7	68.2	61.4	84.2	72.0	66.7
Q5-2. 介護従事者の負担が軽減される	83.7	75.4	82.0	84.8	88.7	82.6	84.1	77.1	82.4	76.6	84.8
Q5-3. 介護を受けることに対する利用者の心理的負担が軽減する	68.2	63.9	69.0	69.6	68.2	69.3	67.8	61.4	77.7	64.0	67.7

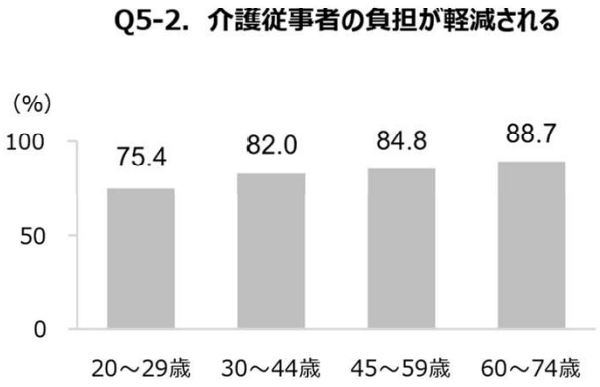
2. 調査結果…（2）介護・福祉：⑤介護現場への技術導入の利便性に関する意見

Q5. 介護現場へのICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及により、介護現場はどのように変わると思いますか。（それぞれ１つずつ選択）
＜年齢区分 【TOP2（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率（%）】＞

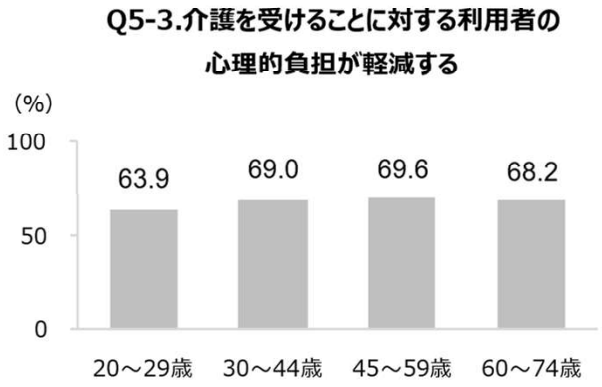
図表20-1



図表20-2



図表20-3



2. 調査結果…（2）介護・福祉：⑥介護・福祉職への関心

- 現在介護・福祉職に従事していない人のうち、今後、介護・福祉の仕事をしてみたい人は11.7%（資格保有の有無を問わず）。
- 年齢区分では、20～29歳が22.1%、30～44歳が14.9%、45～59歳が9.6%、60～74歳が5.3%と、若年層ほど介護・福祉職への関心は高い（比率は「そう思う」と「ややそう思う」の比率。以下同様）。
- 地域区分では、都市部の16.9%に対しその他地域は9.6%と、都市部の方が介護・福祉職への関心は高い。
- 潜在介護・福祉資格保有者のうち、介護・福祉職に就業意向のある人は44.4%。
- 自分もしくは家族に介護・福祉サービスの利用経験がある人は利用経験がない人よりも介護・福祉職への関心が高く、就業意向は利用経験がない人の8.9%に対し、利用経験ありは19.6%である。

Q6. あなたは今後、介護・福祉の仕事をしてみたいと思いますか？（１つ選択）

単位（%）

図表21

		n数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	TOP2	BOTTOM2
全体		2,917	2.5	9.2	18.9	23.0	46.4	11.7	69.4
年齢区分	20～29歳	452	6.6	15.5	20.4	24.1	33.4	22.1	57.5
	30～44歳	733	3.5	11.3	21.1	21.1	42.8	14.9	64.0
	45～59歳	933	1.6	8.0	19.3	22.8	48.2	9.6	71.1
	60～74歳	799	0.3	5.0	15.6	24.2	54.9	5.3	79.1
地域区分	東京23区と政令指定都市	847	3.8	13.1	20.4	22.0	40.7	16.9	62.7
	その他地域	2,070	2.0	7.6	18.3	23.4	48.7	9.6	72.1
介護・福祉属性	介護・福祉職従事者	-						-	-
	介護・福祉職就業意向者	341	21.4	78.6				100.0	-
	潜在介護・福祉資格保有者	261	13.4	31.0	31.8	11.1	12.6	44.4	23.8
	その他	2,431	19.3	26.4	54.3			-	80.7

n＝介護・福祉職従事者以外

※TOP2＝「そう思う」＋「ややそう思う」

※BOTTOM2＝「あまりそう思わない」＋「そう思わない」

参考

介護・福祉サービス利用経験	利用経験あり	762	5.2	14.3	22.0	22.8	35.6	19.6	58.4
	利用経験なし	2,155	1.5	7.4	17.8	23.0	50.3	8.9	73.3

2. 調査結果…（2）介護・福祉：⑦介護・福祉の職場重視点

□ 介護・福祉職従事者と就業意向者に職場を選ぶ際に重視することを聞いた（3つまでの複数回答）。

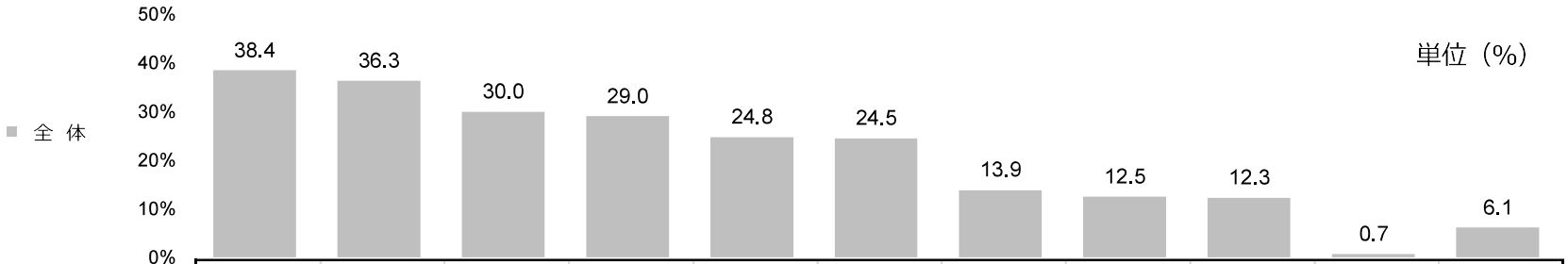
- 「勤務地が自宅から近い」（38.4%）が最も多く、ついで「人間関係が良好」（36.3%）、「休みが取りやすい」（30.0%）であった。
- 年齢区分では、「勤務地が自宅から近い」と「人間関係が良好」は、年齢が高いほど重視する傾向。
- 地域区分では、都市部に比べてその他地域で「賃金に納得感がある」（29.3%）の比率が高い。
- 介護・福祉職従事者は「人間関係が良好」（54.2%）や「賃金に納得感がある」（41.0%）を相対的に重視。介護・福祉職就業意向者は「勤務時間を選べる」（33.8%）を、潜在介護・福祉資格保有者（ここでは就業意向のある者に限定される）は「資格やスキルが身に付き、キャリアアップしていける」（34.5%）や「ICT（情報通信技術）等が導入され、効率的な職場環境になっている」（19.0%）を相対的により重視している。
- 就業意向の高かった20～29歳に関して就業意向者の職場重視点をみると、20～29歳は他の年代に比べて「勤務時間を選べる」（33.0%）、「休みが取りやすい」（30.0%）、「資格やスキルが身に付き、キャリアアップしていける」（29.0%）、「ICT（情報通信技術）等が導入され、効率的な職場環境になっている」（18.0%）が高かった。
- 同じく就業意向の高かった介護・福祉サービス利用経験者に関して就業意向者の職場重視点をみると、利用経験者は非経験者に比べて「資格やスキルが身に付き、キャリアアップしていける」（33.6%）、「人間関係が良好」（36.2%）、「勤務地が自宅から近い」（40.9%）が高かった。

2. 調査結果…（2）介護・福祉：⑦介護・福祉の職場重視点

Q7. 介護・福祉分野で働くにあたり、職場選びではどのような点を重視しますか。3つまで選んでください。（３つまで選択可）

n=介護・福祉職従事者か、介護・福祉職への就業意向がある人
※全体スコアで降順ソート

単位（%）



図表22

		n数	勤務地が自宅から近い	人間関係が良好	休みが取りやすい	勤務時間を選べる	資格やスキルが身に付き、キャリアアップしていける	賃金に納得感がある	経営が安定している	経営者や組織の運営方針に共感できる	ICT（情報通信技術）等が導入され、効率的な職場環境になっている	その他	特にない
全 体		424	38.4	36.3	30.0	29.0	24.8	24.5	13.9	12.5	12.3	0.7	6.1
年齢区分	20～29歳	108	26.9	29.6	29.6	32.4	26.9	13.0	10.2	13.9	18.5	0.0	5.6
	30～44歳	131	36.6	34.4	30.5	25.2	26.7	21.4	12.2	11.5	9.9	0.8	8.4
	45～59歳	128	39.1	38.3	32.8	27.3	22.7	35.9	21.1	13.3	10.2	0.8	6.3
	60～74歳	57	63.2	49.1	22.8	35.1	21.1	28.1	8.8	10.5	10.5	1.8	1.8
地域区分	東京23区と政令指定都市	158	34.2	34.2	29.1	34.2	24.1	16.5	10.1	17.7	11.4	0.6	5.7
	その他地域	266	41.0	37.6	30.5	25.9	25.2	29.3	16.2	9.4	12.8	0.8	6.4
介護・福祉属性	介護・福祉職従事者	83	43.4	54.2	37.3	19.3	15.7	41.0	19.3	9.6	4.8	0.0	13.3
	介護・福祉職就業意向者	341	37.2	32.0	28.2	31.4	27.0	20.5	12.6	13.2	14.1	0.9	4.4
	潜在介護・福祉資格保有者	116	37.9	37.1	24.1	26.7	34.5	16.4	14.7	17.2	19.0	0.9	0.0
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

（参考）

就業意向者	20～29歳	100	29.0	29.0	30.0	33.0	29.0	12.0	9.0	15.0	18.0	0.0	3.0
	介護・福祉サービス利用経験あり	149	40.9	36.2	22.8	31.5	33.6	17.4	10.1	13.4	16.8	1.3	0.7

2. 調査結果…（2）介護・福祉：⑧介護・福祉分野の担い手不足に関する政府への期待

□ 政府への期待を聞いた（3つまでの複数回答）。

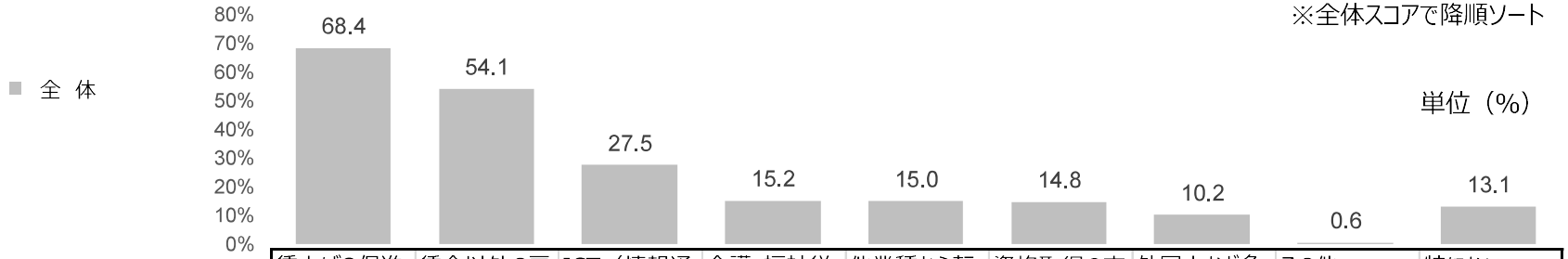
- 「賃上げの促進」が最も多く68.4%、ついで「賃金以外の雇用管理に関する改善（労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など）」が54.1%である。「ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上」は27.5%だった。
- 年齢を問わず「賃上げの促進」と「賃金以外の雇用管理に関する改善」が多いが、高齢層ほど両比率がいずれも高く、政府への期待がより強い。
- 地域区分による差はほとんどみられない。
- 介護・福祉属性でみると、介護・福祉職従事者は「介護・福祉従事者の社会的評価を高める広報・啓発活動」（30.1%）、介護・福祉職就業意向者は「資格取得の支援や研修制度の充実」（25.2%）、潜在介護・福祉資格保有者は「ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上」（36.0%）への期待が相対的に高い。
- 潜在介護・福祉資格保有者を就業意向の有無別にみると、就業意向がない層は「賃上げの促進」を挙げる比率が61.4%と、就業意向がある層の38.8%よりも大幅に高く、賃金が就業を妨げている一因であることが示唆される。
- 就業意向の高かった20～29歳に関して、就業意向者に絞って政府への期待をみると、20～29歳は他の年代に比べて「ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上」（37.0%）が高かった。
- 同じく就業意向の高かった介護・福祉サービス利用経験者に関して、就業意向者に絞って政府への期待をみると、利用経験者は非経験者に比べて「ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上」（43.0%）と「賃金以外の雇用管理に関する改善」（53.7%）が高かった。

2. 調査結果…（2）介護・福祉：⑧介護・福祉分野の担い手不足に関する政府への期待

Q8. 介護・福祉サービスを担う人材を増やすために政府に期待することは何ですか。以下から該当するものを3つまで選んでください。（３つまで選択可）

※全体スコアで降順ソート

単位（%）



図表23

		n数	賃上げの促進	賃金以外の雇用管理に関する改善（労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など）	ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上	介護・福祉従事者の社会的評価を高める広報・啓発活動	他業種から転職してくる人への支援	資格取得の支援や研修制度の充実	外国人など多様な人材の参画促進	その他	特にない
全 体		3,000	68.4	54.1	27.5	15.2	15.0	14.8	10.2	0.6	13.1
年齢区分	20～29歳	460	53.9	43.3	28.9	9.6	13.3	11.3	8.3	0.4	20.7
	30～44歳	755	67.9	50.9	28.2	11.3	13.6	13.9	8.3	0.3	15.1
	45～59歳	971	70.6	57.0	26.1	14.8	15.8	14.7	10.6	1.0	12.7
	60～74歳	814	74.3	59.8	27.9	22.4	16.3	17.8	12.5	0.5	7.6
地域区分	東京23区と政令指定都市	862	63.3	52.0	30.6	13.0	16.4	13.3	10.6	0.2	14.5
	その他地域	2,138	70.4	55.0	26.3	16.0	14.5	15.4	10.1	0.7	12.6
介護・福祉属性	介護・福祉職従事者	83	71.1	55.4	14.5	30.1	16.9	15.7	7.2	0.0	12.0
	介護・福祉職就業意向者	341	49.0	48.4	32.3	12.0	18.5	25.2	16.4	0.6	5.0
	潜在介護・福祉資格保有者	261	51.3	52.5	36.0	14.6	15.3	17.6	14.2	0.8	3.1
	その他	2,431	71.5	55.0	27.2	15.1	14.4	13.6	9.4	0.6	14.8
（参考）											
潜在介護・福祉資格保有者	就業意向あり	116	38.8	53.4	44.0	13.8	15.5	26.7	19.0	0.0	0.0
	就業意向なし	145	61.4	51.7	29.7	15.2	15.2	10.3	10.3	1.4	5.5
就業意向者	20～29歳	100	36.0	48.0	37.0	11.0	21.0	17.0	18.0	1.0	4.0
	介護・福祉サービス利用経験あり	149	44.3	53.7	43.0	12.1	19.5	22.8	17.4	0.7	0.7

2. 調査結果…（3）医療： ①医療の仕事へのイメージ

- 医療の仕事に対するイメージとして多いのは「社会基盤を支える大事な仕事」（89.1%）、「精神的な負担が大きい仕事」（86.5%）、「スキルや資格が必要な専門性の高い仕事」（85.6%）である（比率は「そう思う」と「ややそう思う」の計、以下同様）。また「夜勤や残業など勤務時間が長い仕事」（83.1%）、「肉体的な負担が大きい仕事」（83.1%）、「人手が足りていない仕事」（81.7%）も多く、いずれも8割を超える。
- 一方でイメージする人が比較的少ないのは「家庭やプライベートと両立できる仕事」（24.4%）、「仕事に対して賃金が見合っていない仕事」（56.2%）、「将来的に成長していく分野の仕事」（59.1%）などである。

Q9. 医療の仕事についてどのようなイメージを持っていますか。それぞれどの程度あてはまるかお答えください。（それぞれ１つずつ選択）

単位（%）

図表24

	n数	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	TOP2	BOTTOM2
Q9-1. 社会基盤を支える大事な仕事	3,000	60.2	28.9	8.3	1.9	0.8	89.1	2.6
Q9-2. やりがいのある仕事	3,000	36.3	37.9	21.2	3.0	1.6	74.2	4.6
Q9-3. スキルや資格が必要な専門性の高い仕事	3,000	59.9	25.7	11.4	2.1	0.9	85.6	3.0
Q9-4. スキルアップやキャリア形成をしていける仕事	3,000	37.0	35.2	22.5	3.7	1.7	72.2	5.3
Q9-5. 家庭やプライベートと両立できる仕事	3,000	6.8	17.6	41.4	22.4	11.8	24.4	34.1
Q9-6. 夜勤や残業など勤務時間が長い仕事	3,000	51.4	31.7	13.3	2.6	1.0	83.1	3.6
Q9-7. 肉体的な負担が大きい仕事	3,000	50.6	32.5	13.5	2.8	0.6	83.1	3.4
Q9-8. 精神的な負担が大きい仕事	3,000	55.2	31.3	11.3	1.7	0.6	86.5	2.2
Q9-9. 雇用が安定している仕事	3,000	29.1	34.6	29.6	4.7	2.0	63.7	6.7
Q9-10. 将来的に成長していく分野の仕事	3,000	22.8	36.2	34.8	4.1	2.0	59.1	6.2
Q9-11. 人手が足りていない仕事	3,000	47.3	34.5	15.6	2.2	0.5	81.7	2.7
Q9-12. 仕事に対して賃金が見合っていない仕事	3,000	26.7	29.6	34.2	7.1	2.4	56.2	9.6

※TOP2＝「そう思う」＋「ややそう思う」

※BOTTOM2＝「あまりそう思わない」＋「そう思わない」

2. 調査結果…（3）医療： ①医療の仕事へのイメージ

- 年齢区分では、多くの項目で高齢層ほど比率が高い傾向で、例えば「社会基盤を支える大事な仕事」は20～29歳では81.1%であるのに対し、60～74歳では94.6%にのぼる。
- 地域区分では差はあまりみられない。差が最も大きかったのは、「家庭やプライベートと両立できる仕事」で、都市部が28.2%であるのに対し、その他地域は22.9%である。
- 医療職従事者は全体に比べて「仕事に対して賃金が見合っていない仕事」（79.1%）と「家庭やプライベートと両立できる仕事」（35.7%）の比率が高い。潜在医療資格保有者は医療職従事者と同様に「家庭やプライベートと両立できる仕事」（49.5%）が全体よりも高いが、「人手が足りていない仕事」（62.9%）は医療職従事者やその他に比べて低い。

Q9. 医療の仕事についてどのようなイメージを持っていますか。それぞれどの程度あてはまるかお答えください。（それぞれ１つずつ選択）
＜年齢区分、地域区分、医療属性 【TOP2（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率（%）】＞

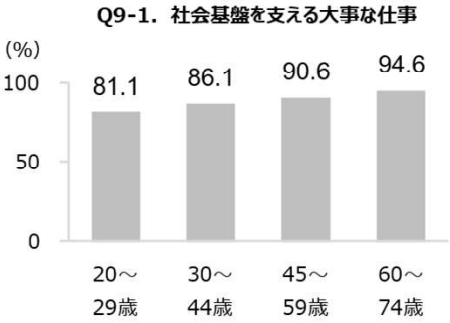
図表25　　単位（%）

	全 体	年齢区分				地域区分		医療属性		
		20～29歳	30～44歳	45～59歳	60～74歳	東京23区と政令指定都市	その他地域	医療職従事者	潜在医療資格保有者	その他
n数	3,000	460	755	971	814	862	2,138	129	194	2,677
Q9-1. 社会基盤を支える大事な仕事	89.1	81.1	86.1	90.6	94.6	87.0	89.9	89.9	88.7	89.1
Q9-2. やりがいのある仕事	74.2	69.3	74.2	72.9	78.5	73.4	74.5	77.5	76.8	73.9
Q9-3. スキルや資格が必要な専門性の高い仕事	85.6	77.6	81.5	87.4	91.8	84.0	86.2	85.3	74.2	86.4
Q9-4. スキルアップやキャリア形成をしていける仕事	72.2	62.6	69.4	72.7	79.6	70.4	72.9	75.2	68.6	72.3
Q9-5. 家庭やプライベートと両立できる仕事	24.4	29.3	26.8	21.0	23.6	28.2	22.9	35.7	49.5	22.1
Q9-6. 夜勤や残業など勤務時間が長い仕事	83.1	74.1	80.1	84.4	89.2	80.9	84.0	76.7	67.5	84.5
Q9-7. 肉体的な負担が大きい仕事	83.1	73.7	81.6	85.0	87.6	80.0	84.3	77.5	69.1	84.4
Q9-8. 精神的な負担が大きい仕事	86.5	75.4	84.8	88.6	91.8	84.9	87.1	86.8	77.8	87.1
Q9-9. 雇用が安定している仕事	63.7	57.6	66.4	61.9	66.8	61.6	64.5	67.4	61.9	63.7
Q9-10. 将来的に成長していく分野の仕事	59.1	56.3	58.5	55.3	65.6	59.0	59.1	54.3	60.3	59.2
Q9-11. 人手が足りていない仕事	81.7	71.7	77.9	83.9	88.3	79.6	82.6	82.2	62.9	83.1
Q9-12. 仕事に対して賃金が見合っていない仕事	56.2	55.7	54.3	56.2	58.4	56.0	56.3	79.1	60.8	54.8

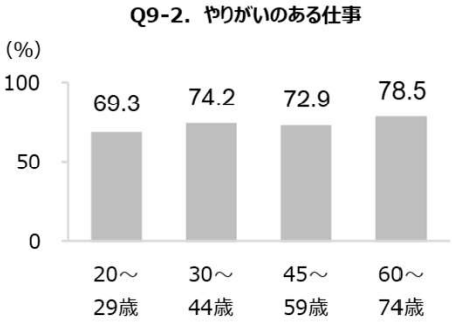
2. 調査結果…（3）医療： ①医療の仕事へのイメージ

Q9. 医療の仕事についてどのようなイメージを持っていますか。それぞれどの程度あてはまるかお答えください。（それぞれ１つずつ選択）
＜年齢区分 【TOP2（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率（%）】＞

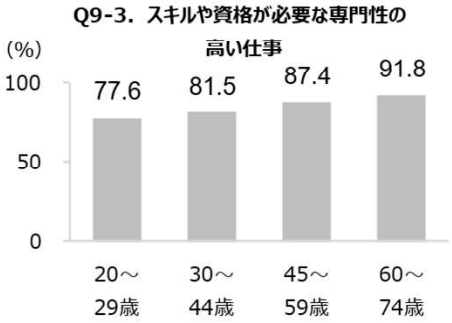
図表26-1



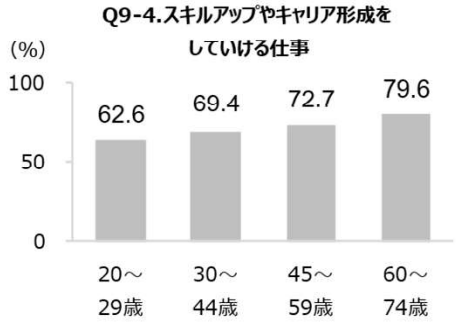
図表26-2



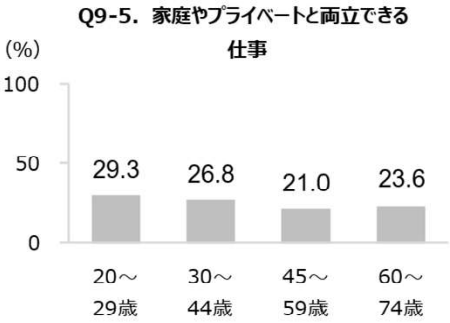
図表26-3



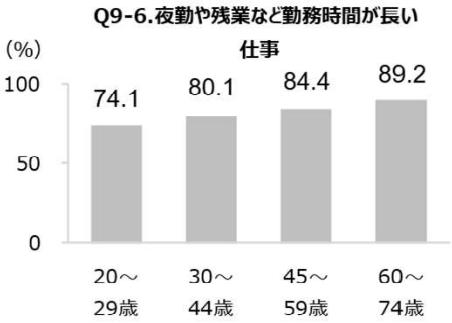
図表26-4



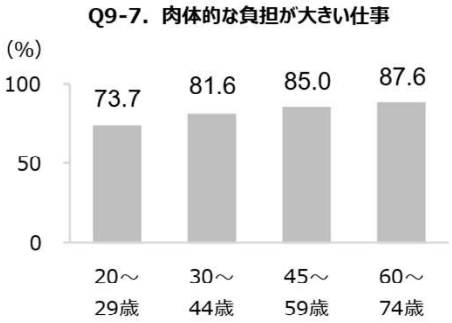
図表26-5



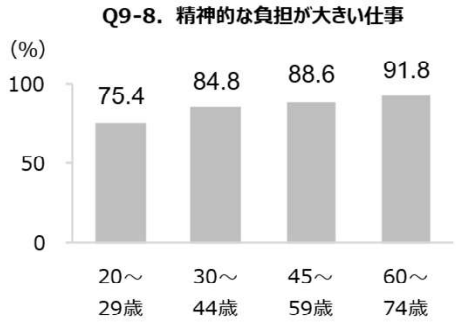
図表26-6



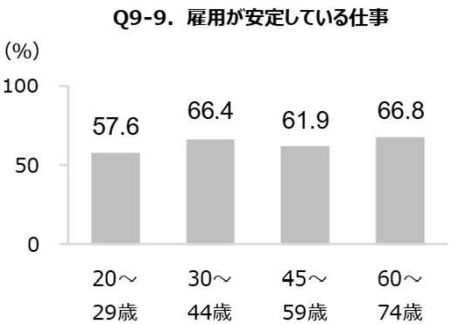
図表26-7



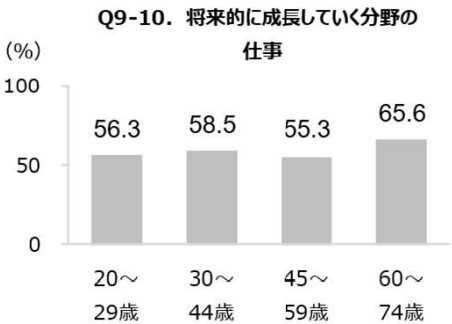
図表26-8



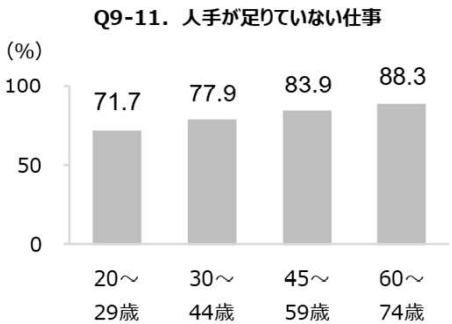
図表26-9



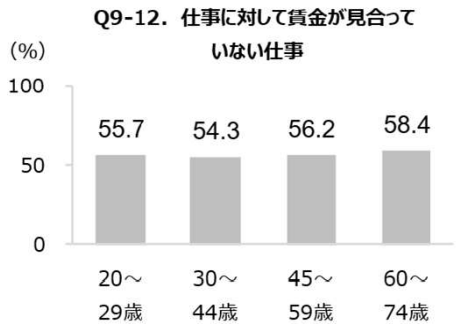
図表26-10



図表26-11



図表26-12



2. 調査結果…（3）医療： ②医療分野の担い手不足に対する不安

- 医療分野の将来の担い手不足に不安を感じる人（「不安を感じる」と「やや不安を感じる」の合計、以下同様）は74.5%。
- 年齢区分では20～29歳が58.3%、60～74歳は82.1%で、年齢が上がるほど不安に感じる傾向。
- 地域区分による差はほとんどみられない。
- 医療職従事者（76.7%）やその他（74.9%）に比べ、潜在医療資格保有者（67.5%）は不安に感じる人の比率が低い。

Q10. あなたは医療分野における将来の担い手不足について、どのように感じますか。（１つ選択）

単位（%）

図表27

■不安を感じる　■やや不安を感じる　■どちらともいえない　■あまり不安を感じない　■不安を感じない

		n数	不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	不安を感じない	TOP2	BOTTOM2
全体		3,000	34.3	40.3	18.7	4.4	2.3	74.5	6.7
年齢区分	20～29歳	460	21.7	36.5	25.9	10.2	5.7	58.3	15.9
	30～44歳	755	31.5	42.1	18.3	5.3	2.8	73.6	8.1
	45～59歳	971	38.3	38.3	17.9	3.7	1.8	76.6	5.5
	60～74歳	814	39.1	43.0	16.1	1.1	0.7	82.1	1.8
地域区分	東京23区と政令指定都市	862	31.1	42.1	20.1	5.1	1.6	73.2	6.7
	その他地域	2,138	35.5	39.5	18.2	4.1	2.6	75.1	6.7
医療属性	医療職従事者	129	31.8	45.0	15.5	6.2	1.6	76.7	7.8
	潜在医療資格保有者	194	23.7	43.8	21.1	7.7	3.6	67.5	11.3
	その他	2,677	35.2	39.8	18.7	4.1	2.3	74.9	6.4

※TOP2＝「不安を感じる」＋「やや不安を感じる」

※BOTTOM2＝「あまり不安を感じない」＋「不安を感じない」

2. 調査結果…（3）医療： ③医療現場への技術導入に対する受容度①

- 将来、医療現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対しては肯定的な受け止めが多い。「電子カルテ、オンライン診療などのICT（情報通信技術）が導入されること」は82.6%、「療養中のケアを支援するロボットが導入されること」は75.9%、「手術支援をするロボットなどが導入されること」は74.3%、「医師の診断を支援するAI等が導入されること」は72.4%が肯定的である（比率は「賛成だ」と「やや賛成だ」の合計、以下同様）。
- またICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを受けることに対しては、「家族が受けること」には71.9%が、「自分が受けること」には71.8%が肯定的である。

Q11. 将来、医療現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対してどう感じますか。以下それぞれについてお答ください。（それぞれ 1つずつ選択）

単位（%）

図表28

	n数	賛成だ	やや賛成だ	どちらともいえない	やや反対だ	反対だ	TOP2	BOTTOM2
Q11-1. 医療現場で、電子カルテ、オンライン診療などのICT（情報通信技術）が導入されること	3,000	46.6	36.0	15.0	1.9	0.5	82.6	2.4
Q11-2. 医療現場で、医師の診断を支援するAI等が導入されること	3,000	36.9	35.5	22.8	3.8	1.0	72.4	4.9
Q11-3. 医療現場で、手術支援をするロボットなどが導入されること	3,000	37.6	36.7	21.1	3.6	1.0	74.3	4.6
Q11-4. 医療現場で、療養中のケアを支援するロボットが導入されること	3,000	38.0	37.9	20.1	3.4	0.6	75.9	4.0
Q11-5. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを家族が受けること	3,000	35.1	36.8	24.0	3.4	0.8	71.9	4.1
Q11-6. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを自分が受けること	3,000	36.0	35.8	24.3	3.0	0.9	71.8	3.9

※TOP2＝「賛成だ」＋「やや賛成だ」
※BOTTOM2＝「反対だ」＋「やや反対だ」

2. 調査結果…（3）医療： ③医療現場への技術導入に対する受容度①

- 年齢区分では、高齢層ほど技術の導入に肯定的で、例えば「電子カルテ、オンライン診療などのICT（情報通信技術）が導入されること」は20～29歳の79.1%に対し、60～74歳は84.9%が肯定的である。
- 地域区分では差はほとんどみられない。
- 医療職従事者の技術導入の受容度は全体的な傾向と大きく変わらない。潜在医療資格保有者は全体や医療職従事者に比べて肯定的な度合いがやや低い傾向。

Q11. 将来、医療現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対してどう感じますか。以下それぞれについてお答ください。（それぞれ 1つずつ選択）
＜年齢区分、地域区分、医療属性 【TOP2（「賛成だ」+「やや賛成だ」）の比率（%）】＞

図表29

単位（%）

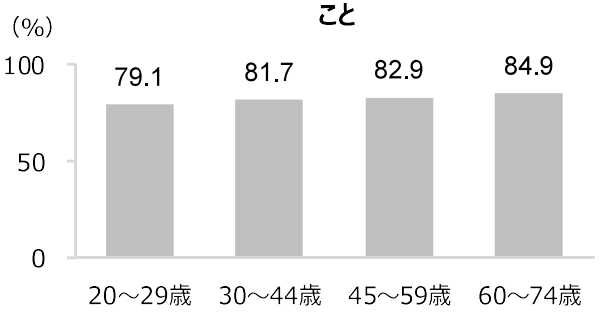
	全 体	年齢区分				地域区分		医療属性		
		20～29歳	30～44歳	45～59歳	60～74歳	東京23区と政令指定都市	その他地域	医療職従事者	潜在医療資格保有者	その他
n数	3,000	460	755	971	814	862	2,138	129	194	2,677
Q11-1. 医療現場で、電子カルテ、オンライン診療などのICT（情報通信技術）が導入されること	82.6	79.1	81.7	82.9	84.9	82.4	82.6	84.5	82.0	82.5
Q11-2. 医療現場で、医師の診断を支援するAI等が導入されること	72.4	65.7	72.5	72.4	76.0	73.2	72.0	75.2	67.5	72.6
Q11-3. 医療現場で、手術支援をするロボットなどが導入されること	74.3	67.6	74.3	75.3	76.9	73.4	74.6	74.4	74.2	74.3
Q11-4. 医療現場で、療養中のケアを支援するロボットが導入されること	75.9	70.0	75.1	75.8	80.1	74.6	76.4	75.2	68.0	76.5
Q11-5. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを家族が受けること	71.9	67.2	71.3	72.9	74.0	72.0	71.8	72.9	66.0	72.3
Q11-6. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを自分が受けること	71.8	69.3	71.8	72.4	72.5	71.9	71.7	71.3	69.6	72.0

2. 調査結果…（3）医療： ③医療現場への技術導入に対する受容度①

Q11. 将来、医療現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対してどう感じますか。以下それぞれについてお答ください。（それぞれ 1つずつ選択）
＜年齢区分 【TOP2（「賛成だ」+「やや賛成だ」）の比率（%）】＞

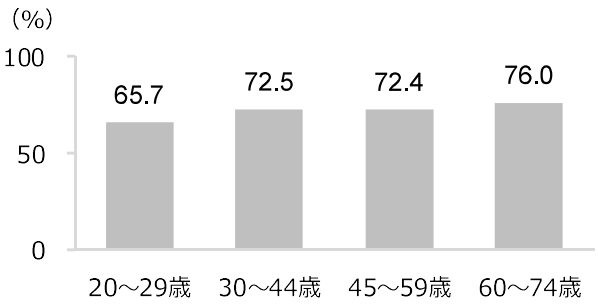
図表30-1

Q11-1. 医療現場で、電子カルテ、オンライン診療などのICT（情報通信技術）が導入されること



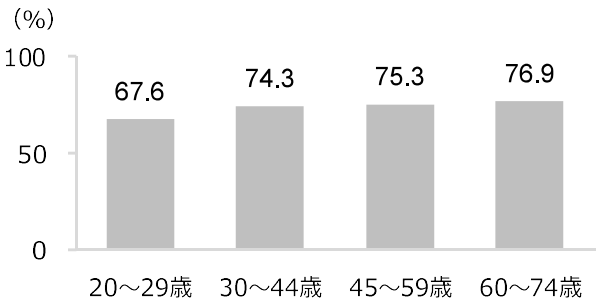
図表30-2

Q11-2. 医療現場で、医師の診断を支援するAI等が導入されること



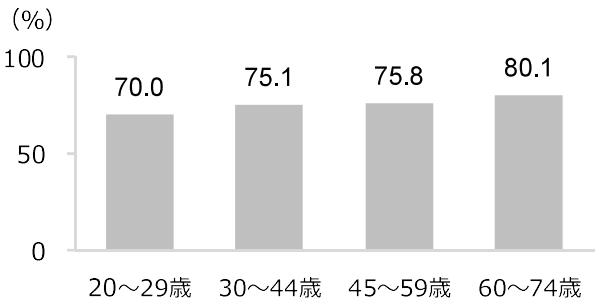
図表30-3

Q11-3. 医療現場で、手術支援をするロボットなどが導入されること



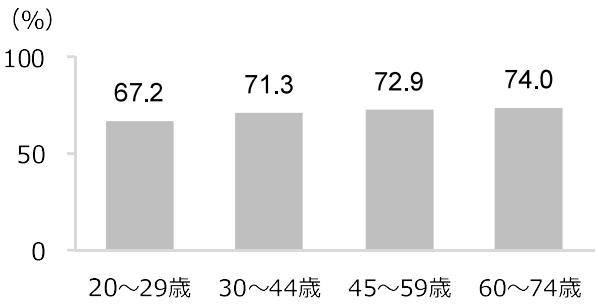
図表30-4

Q11-4. 医療現場で、療養中のケアを支援するロボットが導入されること



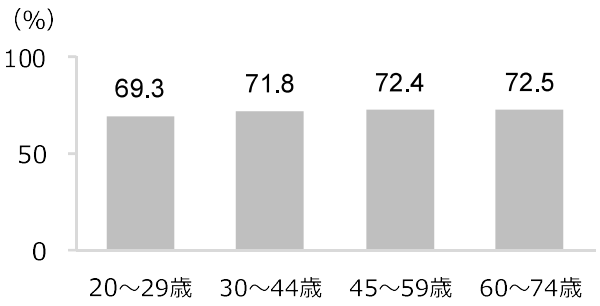
図表30-5

Q11-5. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを家族が受けること



図表30-6

Q11-6. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを自分が受けること



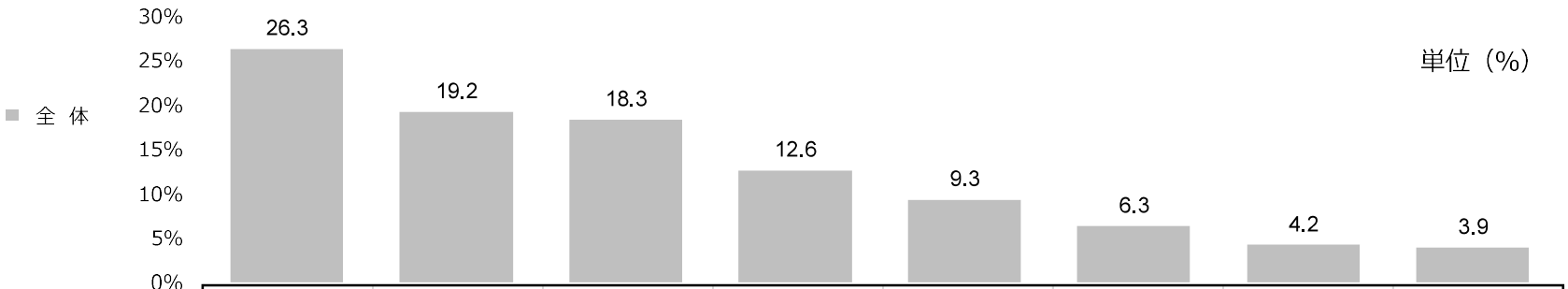
2. 調査結果…（3）医療：④医療現場への技術導入に対する受容度②（反対する理由）

- 医療現場への技術導入に否定的な層（6つの項目のうちいずれかで「反対だ」もしくは「やや反対だ」と回答した人）にその理由を聞いた。最も多かったのは「AIやロボット技術の安全性に不安を感じるから」（26.3%）で、ついで「対面の診療でないと、医師等とのコミュニケーションが不足しそうだから」（19.2%）、「なんとなく不安に感じるから」（18.3%）であった。
- 年齢区分では、年齢層を問わず「AIやロボット技術の安全性に不安を感じるから」が多いが、30～44歳は「なんとなく不安に感じるから」（26.4%）が最も多い。

Q12. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を活用した医療サービスの利用や導入に否定的な理由として、あなたの考えに一番近いものを選んでください。（１つ選択）

n＝医療現場への技術導入反対者
※全体スコアで降順ソート

単位（%）



図表31

		n数	AIやロボット技術の安全性に不安を感じるから	対面の診療でないと、医師等とのコミュニケーションが不足しそうだから	なんとなく不安に感じるから	療養中のケアは、ロボットよりも人間のほうが好ましいから	プライバシーや個人情報の扱いが心配だから	費用が高くなりそうだから	新しい技術を利用したいと思わないから	その他
全 体		334	26.3	19.2	18.3	12.6	9.3	6.3	4.2	3.9
年齢区分	20～29歳	90	26.7	11.1	16.7	13.3	16.7	7.8	3.3	4.4
	30～44歳	72	20.8	18.1	26.4	8.3	12.5	4.2	5.6	4.2
	45～59歳	96	27.1	20.8	17.7	12.5	5.2	6.3	5.2	5.2
	60～74歳	76	30.3	27.6	13.2	15.8	2.6	6.6	2.6	1.3
地域区分	東京23区と政令指定都市	80	22.5	21.3	16.3	11.3	15.0	3.8	5.0	5.0
	その他地域	254	27.6	18.5	18.9	13.0	7.5	7.1	3.9	3.5

※医療属性は小サンプルのため非表示

2. 調査結果…（3）医療：⑤医療現場への技術導入の利便性に関する意見

- ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及による医療現場の変化に関しては、肯定的な意見が多い。「医療従事者の負担が軽減される」が82.6%と最も多く、「より安全で質の高い医療サービスを利用できる」は70.2%、「患者の身体的・心理的な負担が軽減される」は68.5%である（比率は「そう思う」と「ややそう思う」の合計、以下同様）。

Q13. 医療現場へのICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及により、医療現場はどのように変わると思いますか。（それぞれ１つずつ選択）

単位（%）

図表32

	n数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	TOP2	BOTTOM2
Q13-1. より安全で質の高い医療サービスを利用できる	3,000	28.5	41.7	26.5	2.8	0.6	70.2	3.3
Q13-2. 医療従事者の負担が軽減される	3,000	43.6	39.0	15.2	1.8	0.4	82.6	2.2
Q13-3. 患者の身体的・心理的な負担が軽減される	3,000	30.9	37.6	26.6	4.1	0.8	68.5	4.9

※TOP2＝「そう思う」＋「ややそう思う」

※BOTTOM2＝「あまりそう思わない」＋「そう思わない」

2. 調査結果…（3）医療：⑤医療現場への技術導入の利便性に関する意見

- 「医療従事者の負担が軽減される」と考える比率は、60～74歳が87.6%とやや高いが、「より安全で質の高い医療サービスを利用できる」と「患者の身体的・心理的な負担が軽減される」については、年齢差はほとんどない。
- 地域区分による差はあまりみられない。
- 医療職従事者は、潜在医療資格保有者やその他に比べて「医療従事者の負担が軽減される」（76.0%）と「患者の身体的・心理的な負担が軽減される」（59.7%）に関して肯定的な意見がやや少ない。

Q13. 医療現場へのICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及により、医療現場はどのように変わると思いますか。（それぞれ１つずつ選択）
＜年齢区分、地域区分、医療属性 【TOP2（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率（%）】＞

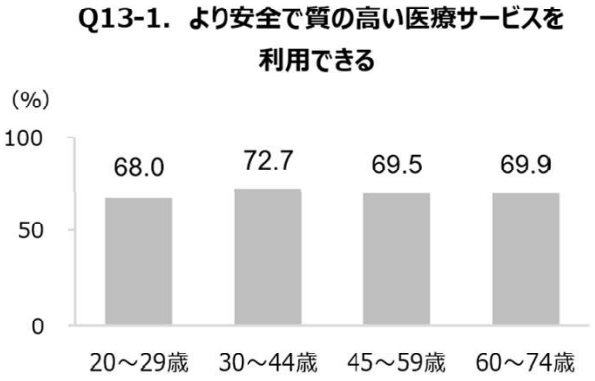
図表33　　単位（%）

	全 体	年齢区分				地域区分		医療属性		
		20～29歳	30～44歳	45～59歳	60～74歳	東京23区と政令指定都市	その他地域	医療職従事者	潜在医療資格保有者	その他
n数	3,000	460	755	971	814	862	2,138	129	194	2,677
Q13-1. より安全で質の高い医療サービスを利用できる	70.2	68.0	72.7	69.5	69.9	71.3	69.7	69.8	72.7	70.0
Q13-2. 医療従事者の負担が軽減される	82.6	79.1	81.1	81.2	87.6	81.4	83.0	76.0	79.4	83.1
Q13-3. 患者の身体的・心理的な負担が軽減される	68.5	67.6	71.5	67.0	68.1	68.7	68.5	59.7	69.6	68.9

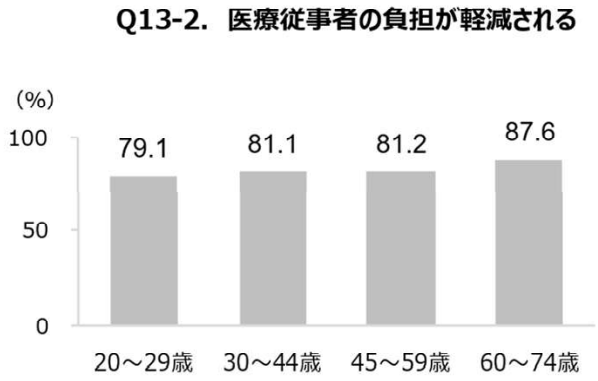
2. 調査結果…（3）医療：⑤医療現場への技術導入の利便性に関する意見

Q13. 医療現場へのICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及により、医療現場はどのように変わると思いますか。（それぞれ１つずつ選択）
＜年齢区分 【TOP2（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率（%）】＞

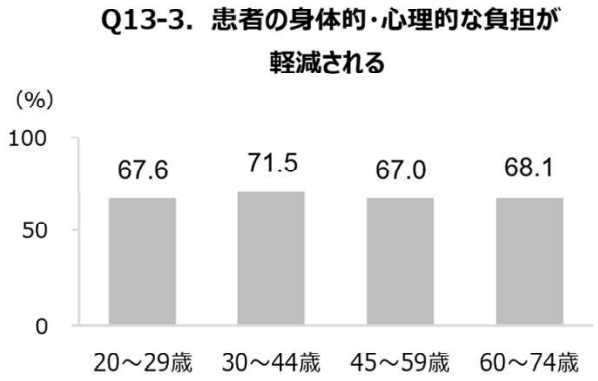
図表34-1



図表34-2



図表34-3



2. 調査結果…（3）医療：⑥医療分野の人手不足に関する政府への期待

□ 政府への期待を聞いた（3つまでの複数選択）。

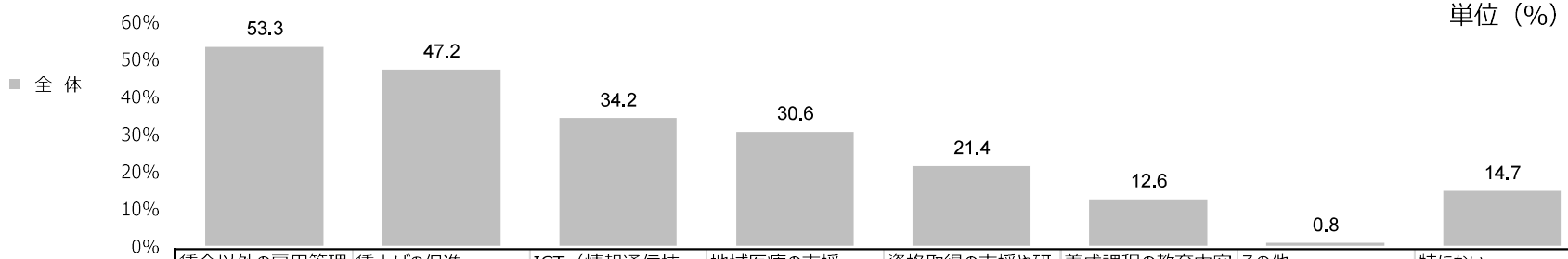
- 「賃金以外の雇用管理に関する改善（労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など）」（53.3%）が最も多く、ついで「賃上げの促進」（47.2%）、「ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上」（34.2%）である。
- 「賃金以外の雇用管理に関する改善（労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など）」への期待は年齢が上がるほど高くなる傾向。また60～74歳は「地域医療の支援」への期待が44.0%と相対的に高い。
- 地域区分では「地域医療の支援」への期待が、都市部（24.2%）よりもその他地域（33.1%）で高い。
- 医療職従事者は全体に比べ「賃上げの促進」（66.7%）、「賃金以外の雇用管理に関する改善（労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など）」（60.5%）への期待が相対的に高い。
一方潜在医療資格保有者は全体に比べ「資格取得の支援や研修制度の充実」（25.3%）、「養成課程の教育内容の充実」（16.5%）への期待が高い。

2. 調査結果…（3）医療：⑥医療分野の人手不足に関する政府への期待

Q14. 医療サービスを担う人材を増やすために政府に期待することは何ですか。以下から該当するものを3つまで選んでください。（３つまで選択可）

※全体スコアで降順ソート

単位（%）



図表35

		n数	賃金以外の雇用管理に関する改善（労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など）	賃上げの促進	ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上	地域医療の支援	資格取得の支援や研修制度の充実	養成課程の教育内容の充実	その他	特にない
全 体		3,000	53.3	47.2	34.2	30.6	21.4	12.6	0.8	14.7
年齢区分	20～29歳	460	42.4	38.9	30.2	18.0	19.8	12.4	0.7	23.9
	30～44歳	755	47.9	46.6	33.1	23.8	23.6	12.5	0.8	16.8
	45～59歳	971	56.5	50.7	34.8	30.5	18.8	11.8	0.9	14.5
	60～74歳	814	60.4	48.2	36.9	44.0	23.2	13.6	0.9	7.9
地域区分	東京23区と政令指定都市	862	51.9	45.5	36.1	24.2	20.1	12.5	0.6	15.7
	その他地域	2,138	53.8	47.8	33.5	33.1	21.9	12.6	0.9	14.4
医療属性	医療職従事者	129	60.5	66.7	38.0	27.9	12.4	10.1	0.8	7.8
	潜在医療資格保有者	194	49.5	34.5	35.6	20.6	25.3	16.5	0.5	9.3
	その他	2,677	53.2	47.1	34.0	31.4	21.5	12.4	0.9	15.5

3 分析・考察

3. 分析・考察…（1）介護・福祉サービス

1）将来の担い手不足への不安が大きい。

参照ページ：18

- 介護・福祉分野の担い手不足に不安を感じる人は 81.3%と非常に多い。
- 年齢が高いほど不安が強く、20代の69.6%に対し、60～74歳は87.3%。
- 介護・福祉職への就業意向者の不安が強い（87.1%）。

2）介護・福祉職の仕事に対するイメージは全体的にネガティブな傾向だが、就業意向者は介護・福祉分野の成長性や安定性をポジティブに捉えている。

参照ページ：15～17

- 「肉体的負担が大きい」「精神的負担が大きい」「人手不足」「賃金が見合っていない」といった負のイメージを持つ人が8割を超える。「社会基盤を支える大事な仕事」も86.2%と高いが、こうしたポジティブなイメージは限定的。
- ただし介護・福祉職従事者（以下、現従事者）、介護・福祉職就業意向者（以下、就業意向者）、潜在介護・福祉資格保有者（以下、潜在者）はいずれも「家庭と両立できる」「やりがいがある」「キャリア形成していける」といったポジティブなイメージを全体に比べて持っており、実際に従事している人や関心のある人と一般の人との間にイメージの乖離がみられた。
- また就業意向者は「将来的に成長していく分野」（68.3%）、「雇用が安定」（64.5%）というイメージをより強く持っている。介護・福祉分野の成長性や安定性を訴求することで、介護・福祉職への関心を高めることができる可能性が示唆される。
- 潜在者のうち就業意向のない者（資格を持ちながら就業する意向がない者）は「成長していく分野」「家庭と両立できる」「やりがいがある」「雇用が安定」といった肯定的なイメージが低く、これらが就業意向を妨げている可能性が示唆される。

3. 分析・考察…（1）介護・福祉サービス

3）先進技術の導入（ICT・AI・ロボット）への受容度は高い。

参照ページ：19～24

- 「利用者見守り支援機器」「移乗介護ロボット」「排泄・入浴介護ロボット」の導入には約8割が肯定的。
- 自分自身や家族が先進技術を使った介護サービスを受けることにも7割以上が肯定的。
- 年齢では高齢者の方が肯定的で、20代は相対的に肯定の度合いが低い。
- 現従事者と潜在者は、全体に比べ技術導入に肯定的な度合いが低い。また現従事者と潜在者よりも就業意向者の方が技術導入に肯定的。介護現場で先進技術の導入が進むことで、介護・福祉職への関心が高まる可能性が示唆される。また現従事者も「利用者見守り支援機器」に関しては他の技術よりも受容度が高かった。技術が実際に導入され、そのメリットを感じられるようになると、現従事者の受容度も高まる可能性が示唆される。
- 技術導入の利便性に関しては、介護サービスを提供する側と受ける側の双方にメリットがあると受け止められているが、「従事者の負担軽減」という提供側のメリットがより強く感じ取られている。「従事者の負担軽減」については高齢層に肯定的な意見が多い。
- また就業意向者は、技術導入に関して介護サービスを受ける側のメリットを強く感じている。介護職従事者を増やすという観点では、技術導入による従事者の負担軽減だけでなく、被介護者にとっての利点も意識することが肝要と考えられる。

3. 分析・考察…（1）介護・福祉サービス

4）就業意向は11.7%。20代と介護サービス利用経験者は就業意向が高い。

参照ページ：25～27

- 非従事者のうち介護・福祉職に就業意向のある比率は11.7%。若年層の就業意向が相対的に高く、20代は22.1%。
- 非従事者のうち潜在介護・福祉資格保有者の就業意向は44.4%。
- 介護サービス利用経験者は就業意向が高く（19.6%）、利用経験のない人の約2倍。
- 職場選びで重視するのは「自宅から近い」「人間関係」「休みの取りやすさ」。
- 現従事者は「人間関係」や「賃金」を、就業意向者は「勤務時間」を、潜在者は「資格やスキル」や「ICT等の導入」を相対的により重視している。
- 20代の就業意向者は「勤務時間」「休みの取りやすさ」「資格やスキル」「ICT等の導入」への重視度が相対的に高い。サービス利用経験のある就業意向者は、非経験者に比べて「資格やスキル」「人間関係」「自宅から近い」が高い。

3. 分析・考察…（1）介護・福祉サービス

5）政府への期待は主に賃上げと雇用管理改善への支援。

参照ページ：28～29

- 政府への期待は「賃上げの促進」（68.4%）と「雇用管理改善※」（54.1%）が多い。
- 現従事者は「社会的評価を高める広報・啓発活動」（30.1%）、就業意向者は「資格取得の支援や研修制度の充実」（25.2%）、潜在者は「ICT等の導入による現場の負担軽減や生産性向上」（36.0%）への期待が相対的に高い。
- 潜在者を就業意向の有無別にみると、「賃上げの促進」を挙げる比率が就業意向がない層はある層よりも高く、賃金が就業を妨げている一因であることが示唆される。
- 就業意向の高い20～29歳とサービス利用経験者について就業意向者に絞ってみると「ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上」がいずれも高い。

※労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など

3. 分析・考察…（2）医療サービス

1）将来の担い手不足への不安が大きい。

参照ページ：33

- 医療分野の担い手不足に不安を感じる人は 74.5%。
- 年齢が高いほど不安が強く、20代の58.3%に対し、60～74歳は82.1%。
- 潜在医療資格保有者（以下、潜在者）は不安に感じる人の比率が67.5%と、医療職従事者（以下、現従事者）の76.7%やその他の74.9%に比べ低い。

2）医療職の仕事に対するイメージは全体的にネガティブな傾向。

参照ページ：30～32

- 「社会基盤を支える」というポジティブなイメージが最も強いものの、「精神的負担が大きい」「スキルや資格が必要」「勤務時間が長い」「肉体的負担が大きい」「人手不足」が多く、いずれも8割を超える。「家庭と両立できる仕事」（24.4%）は少ない。
- 現従事者は全体に比べて「賃金が見合っていない」と「家庭と両立できる」の比率が高い。潜在者は現従事者と同様に「家庭と両立できる」が高いが、「人手不足」は現従事者やその他ほど高くない。このことから「家庭との両立」は現従事者や潜在者より一般の人の方が難しい印象を持っていること、潜在者は担い手不足に現従事者ほど切迫感を感じていないことが示唆される。

3. 分析・考察…（2）医療サービス

3）先進技術の導入（ICT・AI・ロボット）への受容度は高い。

参照ページ：34～40

- 「ICTの導入」「医療ケア支援ロボット」「手術支援ロボット」「診断支援AI」には７割以上が肯定的。
- 自分自身や家族が先進技術を使った医療サービスを受けることにも7割以上が肯定的。
- 年齢では高齢者の方が肯定的で、20代は相対的に肯定の度合いが低い。
- 全体や現従事者に比べて潜在者は肯定的な度合いがやや低い。
- 技術導入に否定的な層にその理由を聞いたところ、多い順に「安全性に不安」「医師とのコミュニケーション不足」「なんとなく」が挙がった。「安全性に不安」は年齢層を問わず多い。
- 技術導入の利便性に関しては、医療サービスを提供する側と受ける側の双方にメリットがあると受け止められているが、「従事者の負担軽減」という提供側のメリットがより強く感じ取られている。「従事者の負担軽減」については高齢層に肯定的な意見が多い。
- 現従事者は、潜在者やその他に比べて「従事者の負担軽減」と「患者の負担軽減」に関して肯定的な意見がやや少ない。実際に医療現場で働く従事者は、技術導入に期待を寄せながらも、得られるメリットに対してより現実的な見方をしていることが推察される。

3. 分析・考察…（2）医療サービス

4）政府への期待は主に雇用管理改善と賃上げへの支援。

参照ページ：41～42

- 政府への期待は「雇用管理改善※」（53.3%）と「賃上げの促進」（47.2%）が多い。
- 60～74歳と都市部以外の地域で「地域医療の支援」への期待が相対的に高い。
- 現従事者は全体に比べ「賃上げの促進」と「雇用管理改善」への期待が相対的に高い。潜在者は全体に比べ「資格取得の支援や研修制度」、「養成課程の教育内容」への期待が高い。

※労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など

3. 分析・考察…（3）介護・福祉サービスと医療サービスの類似点と相違点

1）類似点

- 両分野とも将来の担い手不足への不安が大きい。介護・福祉は81.3%、医療は74.5%が不安で、いずれも年齢が上がるほど不安が強い傾向。
- 「社会基盤を支える大事な仕事」という肯定的イメージは高く共通しているものの、「肉体的負担」「精神的負担」「人手不足」などの負のイメージが8割前後で高い。
- 先進技術（ICT・AI・ロボット）導入への受容度はいずれも高い。自分や家族が先進技術を用いたサービスを受けることに対しても、両分野で7割超が肯定。またいずれも従事者側の負担軽減がより強くイメージされている。
- 政府への期待は「賃上げ」「雇用管理改善」が中心。
- 年齢では、両分野とも高齢層において、担い手不足への不安と技術導入の受容度が高い。また政府への期待も大きい。高齢層はサービスを受ける立場として、より現実的で切迫した問題として捉えていることが示唆される。
- 地域では、多くの項目で都市部とその他地域の差は小さい。
- 現従事者に共通・類似している点としては「家庭と両立できる仕事」というイメージをより持っていることが挙げられる。
- 潜在者に共通・類似している点としては、現従事者同様「家庭と両立できる仕事」というイメージを持っているほか、先進技術の導入に対して肯定的な度合いがやや低いことが挙げられる。

3. 分析・考察…（3）介護・福祉サービスと医療サービスの類似点と相違点

2）相違点

- イメージに若干の相違。介護・福祉は「賃金が見合っていない」の比率が相対的に高いのに対し、医療は「スキルや資格が必要な専門性」「夜勤・残業等で勤務時間が長い」の比率が相対的に高い。政府への期待として「賃上げ」はいずれも高いが、介護・福祉が一番高い項目だったのに対し医療では二番目だった。
- 現従事者の相違点としては、介護・福祉従事者が「社会的評価を高める広報・啓発活動」の回答が多く従事者の地位向上への期待が高い一方で、医療従事者は「賃上げ」や「雇用管理改善」など雇用面の改善期待が強いことが挙げられる。
- 潜在者の相違点としては、政府への期待として、介護・福祉分野では「ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上」が高いのに対し、医療分野では「資格取得の支援や研修制度の充実」への期待が高い。

参考資料

参考資料（調査項目詳細）（1/7）

【回答者属性調査】

設問番号	設問形式	設問文	選択肢
F00	SA	あなたの国籍をお知らせください。	1. 日本 2. その他
F01	SA	あなたの性別をお知らせください。	1. 男性 2. 女性
F02	数値入力	あなたの年齢をお知らせください。	－
F03	SA	あなたのお住まいの都道府県をお知らせください。	（47都道府県より選択）
F04	SA	あなたのお住まいの市区町村をお知らせください。	札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、東京23区、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市
F05	SA	世帯構成をお知らせください。	1. 単身世帯 2. 夫婦のみの世帯 3. 親と子の世帯 4. 三世代世帯（親・子・孫） 5. その他の世帯
F06	SA	あなたの現在の職業をお知らせください。	1. 経営者・役員 2. 会社員・公務員・団体職員 3. 専門的職業（医師・弁護士・会計士など） 4. 自営業・フリーランス 5. パート・アルバイト 6. 学生 7. 主婦・主夫 8. 無職 9. その他

参考資料（調査項目詳細）（2/7）

設問番号	設問形式	設問文	選択肢
F07	SA	あなたの現在の職種をお知らせください。	1. 一般事務職（OA事務・一般事務・営業事務・コールセンターオペレーターなど） 2. 専門事務職（経理・財務・貿易・翻訳・通訳・秘書・人事・広報・法務・企画・マーケティングなど） 3. 接客・販売職（受付・サービス・ホテル・物品販売・レジなど） 4. 営業職 5. 生産工程職（生産ライン作業者、加工、組立など） 6. 生産管理・品質管理職（生産管理、工程管理、品質保証など） 7. 配送・梱包・物流・運輸職 8. IT・情報処理・通信技術職 9. 研究開発職・商品開発職 10. クリエイティブ職（デザイナー・イラストレーターなど） 11. 建築・土木設計職（建築土木系技術者、CADオペレーターなど） 12. 建設作業職（現場作業員、土木作業員、重機オペレーターなど） 13. 医療職（医師・看護師・薬剤師など） 14. 介護・福祉職 15. 経営・管理職 16. その他
F08	SA	あなたは介護・福祉に関する資格をお持ちですか。 ※医療に関する資格については次の設問でお聞きしますのでここでは含めずお答えください。	1. 資格を持っている（介護福祉士、ケアマネジャー、社会福祉士、実務者研修など） 2. 資格を持たない
F09	SA	あなたは医療に関する公的な資格をお持ちですか。	1. 公的な資格を持っている（医師、看護師、薬剤師など） 2. 公的な資格を持たない

参考資料（調査項目詳細）（3/7）

【本調査】

設問番号	設問形式	設問文	選択肢
Q1	SA	あなたはご自身や家族のために介護・福祉サービスを利用した経験がありますか。	1. ある 2. ない
Q2	MXSA	介護・福祉の仕事についてどのようなイメージを持っていますか。以下それぞれについてお答えください。	※下記１～12に対して、5段階（そう思う、ややそう思う、どちらとも言えない、あまりそう思わない、そう思わない）のいずれかで回答 1. 社会基盤を支える大事な仕事 2. やりがいのある仕事 3. スキルや資格が必要な専門性の高い仕事 4. スキルアップやキャリア形成をしていける仕事 5. 家庭やプライベートと両立できる仕事 6. 夜勤や残業など勤務時間が長い仕事 7. 肉体的な負担が大きい仕事 8. 精神的な負担が大きい仕事 9. 雇用が安定している仕事 10. 将来的に成長していく分野の仕事 11. 人手が足りていない仕事 12. 仕事に対して賃金が見合っていない仕事
Q3	SA	あなたは介護・福祉分野における将来の担い手不足について、どのように感じますか。	1. 不安を感じる 2. やや不安を感じる 3. どちらともいえない 4. あまり不安を感じない 5. 不安を感じない

参考資料（調査項目詳細）（4/7）

【本調査】

設問番号	設問形式	設問文	選択肢
Q4	MXSA	将来、介護現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対してどう感じますか。以下それぞれについてお答ください。	※下記１～６に対して、5段階（賛成だ、やや賛成だ、どちらともいえない、やや反対だ、反対だ）のいずれかで回答 1. 介護現場で、利用者の移乗、移動で介護ロボットなど先進機器が導入されること 2. 介護現場で、利用者の排泄や入浴などの生活面で、介護ロボットなど先進機器が導入されること 3. 介護現場で、利用者の見守り支援でセンサーなどの先進機器が導入されること 4. 介護現場で、利用者とのコミュニケーションで介護ロボットが導入されること 5. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った介護サービスを家族が受けること 6. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った介護サービスを自分が受けること
Q5	MXSA	介護現場へのICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及により、介護現場はどのように変わると思いますか。	※下記１～３に対して、5段階（そう思う、ややそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない）のいずれかで回答 1. より安全で質の高い介護サービスを利用できる 2. 介護従事者の負担が軽減される 3. 介護を受けることに対する利用者の心理的負担が軽減する
Q6	SA	（職種が介護・福祉職以外） あなたは今後、介護・福祉の仕事をしてみたいと思いますか？	1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. そう思わない

参考資料（調査項目詳細）（5/7）

【本調査】

設問番号	設問形式	設問文	選択肢
Q7	3MA	（現職種が介護・福祉職であるか、介護・福祉職への就業意向がある人） 介護・福祉分野で働くにあたり、職場選びではどのような点を重視しますか。３つまで選んでください。	1. 資格やスキルが身に付き、キャリアアップしていける 2. 勤務地が自宅から近い 3. 勤務時間を選べる 4. 休みが取りやすい 5. 人間関係が良好 6. 経営者や組織の運営方針に共感できる 7. ICT（情報通信技術）等が導入され、効率的な職場環境になっている 8. 経営が安定している 9. 賃金に納得感がある 10. その他 11. 特にない
Q8	3MA	介護・福祉サービスを担う人材を増やすために政府に期待することは何ですか。以下から該当するものを３つまで選んでください。	1. 賃上げの促進 2. 賃金以外の雇用管理に関する改善（労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など） 3. ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上 4. 外国人など多様な人材の参画促進 5. 資格取得の支援や研修制度の充実 6. 他業種から転職してくる人への支援 7. 介護・福祉従事者の社会的評価を高める広報・啓発活動 8. その他 9. 特にない

参考資料（調査項目詳細）（6/7）

【本調査】

設問番号	設問形式	設問文	選択肢
Q9	MXSA	医療の仕事についてどのようなイメージを持っていますか。それぞれどの程度あてはまるかお答えください。	※下記１～12に対して、5段階（そう思う、ややそう思う、どちらとも言えない、あまりそう思わない、そう思わない）のいずれかで回答 1. 社会基盤を支える大事な仕事 2. やりがいのある仕事 3. スキルや資格が必要な専門性の高い仕事 4. スキルアップやキャリア形成をしていける仕事 5. 家庭やプライベートと両立できる仕事 6. 夜勤や残業など勤務時間が長い仕事 7. 肉体的な負担が大きい仕事 8. 精神的な負担が大きい仕事 9. 雇用が安定している仕事 10. 将来的に成長していく分野の仕事 11. 人手が足りていない仕事 12. 仕事に対して賃金が見合っていない仕事
Q10	SA	あなたは医療分野における将来の担い手不足について、どのように感じますか。	1. 不安を感じる 2. やや不安を感じる 3. どちらともいえない 4. あまり不安を感じない 5. 不安を感じない
Q11	MXSA	将来、医療現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対してどう感じますか。以下それぞれについてお答ください。	※下記１～６に対して、5段階（賛成だ、やや賛成だ、どちらともいえない、やや反対だ、反対だ）のいずれかで回答 1. 医療現場で、電子カルテ、オンライン診療などのICT（情報通信技術）が導入されること 2. 医療現場で、医師の診断を支援するAI等が導入されること 3. 医療現場で、手術支援をするロボットなどが導入されること 4. 医療現場で、療養中のケアを支援するロボットが導入されること 5. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを家族が受けること 6. ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを自分が受けること

参考資料（調査項目詳細）（7/7）

【本調査】

設問番号	設問形式	設問文	選択肢
Q12	SA	（Q11で４・５を選択した方） ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を活用した医療サービスの利用や導入に否定的な理由として、あなたの考えに一番近いものを選んでください。	1. 対面の診療でないと、医師等とのコミュニケーションが不足しそうだから 2. AIやロボット技術の安全性に不安を感じるから 3. プライバシーや個人情報の扱いが心配だから 4. 療養中のケアは、ロボットよりも人間のほうが好ましいから 5. 費用が高くなりそうだから 6. 新しい技術を利用したいと思わないから 7. なんとなく不安に感じるから 8. その他
Q13	MXSA	医療現場へのICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及により、医療現場はどのように変わると思いますか。	※下記１～3に対して、5段階（そう思う、ややそう思う、どちらとも言えない、あまりそう思わない、そう思わない）のいずれかで回答 1. より安全で質の高い医療サービスを利用できる 2. 医療従事者の負担が軽減される 3. 患者の身体的・心理的な負担が軽減される
Q14	3MA	医療サービスを担う人材を増やすために政府に期待することは何ですか。以下から該当するものを３つまで選んでください。	1. 賃上げの促進 2. 賃金以外の雇用管理に関する改善（労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など） 3. ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上 4. 資格取得の支援や研修制度の充実 5. 養成課程の教育内容の充実 6. 地域医療の支援 7. その他 8. 特にない

（注）設問形式　SA：単一回答　MA：複数回答
MXSA：マトリクス式のSA　3MA：3つまでの複数回答（回答数は3つに満たなくてもよい）

参考資料（調査画面）（1/20）

あなたご自身に関するアンケート

【 12 % ／ 100% 】

必須 F00.
あなたの国籍をお知らせください。（1つ選択）

- 日本
- その他

必須 F01.
あなたの性別をお知らせください。（1つ選択）

- 男性
- 女性

必須 F02.
あなたの年齢をお知らせください。（数値記入）
※半角数字でご記入ください。

[ ] 歳

参考資料（調査画面）（2/20）

必須 F03.
あなたのお住まいの都道府県をお知らせください。（1つ選択）

▼▼▼選択して下さい▼▼▼

必須 F04.
あなたのお住まいの市区町村をお知らせください。（1つ選択）

▼▼▼選択して下さい▼▼▼

必須 F05.
世帯構成をお知らせください。（1つ選択）

- 単身世帯
- 夫婦のみの世帯
- 親と子の世帯
- 三世代世帯（親・子・孫）
- その他の世帯

参考資料（調査画面）（3/20）

必須 F06.
あなたの現在の職業をお知らせください。（1つ選択）

- 経営者・役員
- 会社員・公務員・団体職員
- 専門的職業（医師・弁護士・会計士など）
- 自営業・フリーランス
- パート・アルバイト
- 学生
- 主婦・主夫
- 無職
- その他

参考資料（調査画面）（4/20）

必須 F07.
あなたの現在の職種をお知らせください。（1つ選択）

- 一般事務職（OA事務・一般事務・営業事務・コールセンターオペレーターなど）
- 専門事務職（経理・財務・貿易・翻訳・通訳・秘書・人事・広報・法務・企画・マーケティングなど）
- 接客・販売職（受付・サービス・ホテル・物品販売・レジなど）
- 営業職
- 生産工程職（生産ライン作業者、加工、組立など）
- 生産管理・品質管理職（生産管理、工程管理、品質保証など）
- 配送・梱包・物流・運輸職
- IT・情報処理・通信技術職
- 研究開発職・商品開発職
- クリエイティブ職（デザイナー・イラストレーターなど）
- 建築・土木設計職（建築土木系技術者、CADオペレーターなど）
- 建設作業職（現場作業員、土木作業員、重機オペレーターなど）
- 医療職（医師・看護師・薬剤師など）
- 介護・福祉職
- 経営・管理職
- その他

参考資料（調査画面）（5/20）

必須 F08.
あなたは介護・福祉に関する資格をお持ちですか。（1つ選択）
※医療に関する資格については次の設問でお聞きしますのでここでは含めずお答えください。

- 資格を持っている（介護福祉士、ケアマネジャー、社会福祉士、実務者研修など）
- 資格を持たない

必須 F09.
あなたは医療に関する公的な資格をお持ちですか。（1つ選択）

- 公的な資格を持っている（医師、看護師、薬剤師など）
- 公的な資格を持たない

参考資料（調査画面）（6/20）

この調査は、「介護・福祉サービス」と「医療サービス」についてご意見をお伺きする調査です。

日本は2040年に、総人口約1億1,284万人のうち、65歳以上が約3,928万人になると推計されており、
人口の約3分の1を高齢者が占める超高齢社会を迎えます。

高齢者の増加に伴い、医療・介護・福祉サービスの需要は一層高まります。
一方で現役世代は減少していくため、これらのサービスの担い手が不足する可能性があります。
将来、必要な時に必要なサービスが受けにくくなる可能性も懸念されています。

このことを前提に、以降の質問にお答えください。

まずは、介護・福祉サービスについてお聞きします。
介護・福祉サービスとは、高齢者や障害のある方など、日常生活において支援が必要な人が安心して暮らせるように、身体介護や生活援助、相談支援などを提供するサービスです。
主なサービスには、訪問介護、デイサービス、施設介護（特別養護老人ホームなど）、障害者支援サービスなどがあります。

必須 Q1.
あなたはご自身や家族のために介護・福祉サービスを利用した経験がありますか。（１つ選択）

- ある
- ない

参考資料（調査画面）（7/20）

必須 Q2.
介護・福祉の仕事についてどのようなイメージを持っていますか。以下それぞれについてお答えください。（それぞれ１つずつ選択）

ヨコに回答→	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない
社会基盤を支える大事な仕事	○	○	○	○	○
やりがいのある仕事	○	○	○	○	○
スキルや資格が必要な専門性の高い仕事	○	○	○	○	○
スキルアップやキャリア形成をしていける仕事	○	○	○	○	○
家庭やプライベートと両立できる仕事	○	○	○	○	○
夜勤や残業など勤務時間が長い仕事	○	○	○	○	○
肉体的な負担が大きい仕事	○	○	○	○	○
精神的な負担が大きい仕事	○	○	○	○	○
雇用が安定している仕事	○	○	○	○	○
将来的に成長していく分野の仕事	○	○	○	○	○
人手が足りていない仕事	○	○	○	○	○
仕事に対して賃金が見合っていない仕事	○	○	○	○	○

参考資料（調査画面）（8/20）

必須 Q3.
あなたは介護・福祉分野における将来の担い手不足について、どのように感じますか。（1つ選択）

- 不安を感じる
- やや不安を感じる
- どちらともいえない
- あまり不安を感じない
- 不安を感じない

参考資料（調査画面）（9/20）

ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術などイノベーションの進展が、介護・福祉の現場負担を軽減することが期待されています。

※画像をクリックすると拡大画像がご覧いただけます。

①移乗支援機器など、介護職員の負担軽減につながる技術

②音声入力機能付きのソフトウェアなど、介護職員の事務処理負担の軽減につながる技術

③見守りセンサーなど、夜間の人手不足への対応につながる技術

④被介護者とのコミュニケーションができるロボット技術

参考資料（調査画面）（10/20）

必須 Q4.
将来、介護現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対してどう感じますか。以下それぞれについてお答えください。（それぞれ１つずつ選択）

ヨコに回答→	賛成だ	やや賛成だ	どちらともいえない	やや反対だ	反対だ
介護現場で、利用者の移乗、移動で介護ロボットなど先進機器が導入されること	○	○	○	○	○
介護現場で、利用者の排泄や入浴などの生活面で、介護ロボットなど先進機器が導入されること	○	○	○	○	○
介護現場で、利用者の見守り支援でセンサーなどの先進機器が導入されること	○	○	○	○	○
介護現場で、利用者とのコミュニケーションで介護ロボットが導入されること	○	○	○	○	○
ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った介護サービスを家族が受けること	○	○	○	○	○
ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った介護サービスを自分が受けること	○	○	○	○	○

参考資料（調査画面）（11/20）

必須 Q5.
介護現場へのICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及により、介護現場はどのように変わると思いますか。（それぞれ１つずつ選択）

ヨコに回答→	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
より安全で質の高い介護サービスを利用できる	○	○	○	○	○
介護従事者の負担が軽減される	○	○	○	○	○
介護を受けることに対する利用者の心理的負担が軽減する	○	○	○	○	○

必須 Q6.
あなたは今後、介護・福祉の仕事をしてみたいと思いますか？（１つ選択）

- ○ そう思う
- ○ ややそう思う
- ○ どちらともいえない
- ○ あまりそう思わない
- ○ そう思わない

参考資料（調査画面）（12/20）

必須 Q7.
介護・福祉分野で働くにあたり、職場選びではどのような点を重視しますか。３つまで選んでください。（３つまで選択可）

- [ ] 資格やスキルが身に付き、キャリアアップしていける
- [ ] 勤務地が自宅から近い
- [ ] 勤務時間を選べる
- [ ] 休みが取りやすい
- [ ] 人間関係が良好
- [ ] 経営者や組織の運営方針に共感できる
- [ ] ICT（情報通信技術）等が導入され、効率的な職場環境になっている
- [ ] 経営が安定している
- [ ] 賃金に納得感がある
- [ ] その他
- [ ] 特にない

参考資料（調査画面）（13/20）

必須 Q8.
介護・福祉サービスを担う人材を増やすために政府に期待することは何ですか。以下から該当するものを３つまで選んでください。（３つまで選択可）

- [ ] 賃上げの促進
- [ ] 賃金以外の雇用管理に関する改善（労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など）
- [ ] ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上
- [ ] 外国人など多様な人材の参画促進
- [ ] 資格取得の支援や研修制度の充実
- [ ] 他業種から転職してくる人への支援
- [ ] 介護・福祉従事者の社会的評価を高める広報・啓発活動
- [ ] その他
- [ ] 特にない

参考資料（調査画面）（14/20）

ここからは医療サービスについてお聞きします。
医療サービスとは、病気やけがの予防、診断、治療、リハビリテーションなどを通じて、人々の健康を維持・回復するために提供されるサービスです。
病院や診療所などの医療機関で、医師、看護師、薬剤師などの専門職が、診療や処方、検査、手術、療養支援などを行います。

必須 Q9.
医療の仕事についてどのようなイメージを持っていますか。それぞれどの程度あてはまるかお答えください。（それぞれ１つずつ選択）

ヨコに回答→	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない
社会基盤を支える大事な仕事	○	○	○	○	○
やりがいのある仕事	○	○	○	○	○
スキルや資格が必要な専門性の高い仕事	○	○	○	○	○
スキルアップやキャリア形成をしていける仕事	○	○	○	○	○
家庭やプライベートと両立できる仕事	○	○	○	○	○
夜勤や残業など勤務時間が長い仕事	○	○	○	○	○
肉体的な負担が大きい仕事	○	○	○	○	○
精神的な負担が大きい仕事	○	○	○	○	○
雇用が安定している仕事	○	○	○	○	○
将来的に成長していく分野の仕事	○	○	○	○	○
人手が足りていない仕事	○	○	○	○	○
仕事に対して賃金が見合っていない仕事	○	○	○	○	○

参考資料（調査画面）（15/20）

必須 Q10.
あなたは医療分野における将来の担い手不足について、どのように感じますか。（1つ選択）

- 不安を感じる
- やや不安を感じる
- どちらともいえない
- あまり不安を感じない
- 不安を感じない

参考資料（調査画面）（16/20）

ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術などイノベーションの進展が、医療の現場負担を軽減することが期待されています。

※画像をクリックすると拡大画像がご覧いただけます。

①オンライン診療など、患者の利便性や医療従事者の負担の軽減につながる技術

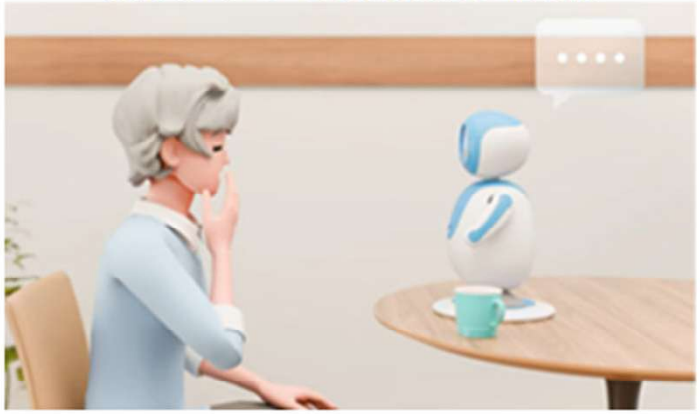
②AIや手術ロボット等による問診や検査、診断・治療の支援など、医療の質の向上や医療従事者の負担軽減につながる技術

参考資料（調査画面）（17/20）

③カルテのペーパーレス化、音声入力による自動文字起こしなど、医療職員の事務処理負担の軽減につながる技術

④マイナンバーカード活用など、医療情報連携を通じた医療の安全の向上につながる技術

⑤患者とのコミュニケーションもできるようなロボット技術



⑥スマートフォンを活用した、迅速な情報共有による、早期治療やケアの質の向上につながる技術

参考資料（調査画面）（18/20）

必須 Q11.
将来、医療現場でICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術が導入されていくことに対してどう感じますか。以下それぞれについてお答ください。（それぞれ１つずつ選択）

ヨコに回答→	賛成だ	やや賛成だ	どちらともいえない	やや反対だ	反対だ
医療現場で、電子カルテ、オンライン診療などのICT（情報通信技術）が導入されること	○	○	○	○	○
医療現場で、医師の診断を支援するAI等が導入されること	○	○	○	○	○
医療現場で、手術支援をするロボットなどが導入されること	○	○	○	○	○
医療現場で、療養中のケアを支援するロボットが導入されること	○	○	○	○	○
ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを家族が受けること	○	○	○	○	○
ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を使った医療サービスを自分が受けること	○	○	○	○	○

参考資料（調査画面）（19/20）

必須 Q12.
ICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術を活用した医療サービスの利用や導入に否定的な理由として、あなたの考えに一番近いものを選んでください。（１つ選択）

- 対面の診療でないと、医師等とのコミュニケーションが不足しそうだから
- AIやロボット技術の安全性に不安を感じるから
- プライバシーや個人情報の扱いが心配だから
- 療養中のケアは、ロボットよりも人間のほうが好ましいから
- 費用が高くなりそうだから
- 新しい技術を利用したいと思わないから
- なんとなく不安に感じるから
- その他

必須 Q13.
医療現場へのICT（情報通信技術）やAI、ロボット技術の導入・普及により、医療現場はどのように変わると思いますか。（それぞれ１つずつ選択）

ヨコに回答→	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
より安全で質の高い医療サービスを利用できる					
医療従事者の負担が軽減される					
患者の身体的・心理的な負担が軽減される					

参考資料（調査画面）（20/20）

必須 Q14.
医療サービスを担う人材を増やすために政府に期待することは何ですか。以下から該当するものを３つまで選んでください。（３つまで選択可）

- [ ] 賃上げの促進
- [ ] 賃金以外の雇用管理に関する改善（労働条件、労働環境、人事評価、人材育成、福利厚生、仕事と家庭の両立支援など）
- [ ] ICT（情報通信技術）等の導入による現場の負担軽減や生産性向上
- [ ] 資格取得の支援や研修制度の充実
- [ ] 養成課程の教育内容の充実
- [ ] 地域医療の支援
- [ ] その他
- [ ] 特にない